

小清水町 人口ビジョン
(令和元年度見直し版)

令和2年3月

小清水町

目 次

1	はじめに	1
2	人口の現状分析	2
2-1	人口動向分析	2
2-2	将来人口の推計と分析	16
2-3	人口の変化が地域の将来に与える影響	24
3	まちづくりに関するアンケート調査結果	34
3-1	調査の概要	34
3-2	町民アンケート結果	44
3-3	中学生アンケート結果	54
4	人口の将来展望	59
4-1	めざすべき将来の方向	59
4-2	人口の将来展望	61

1 はじめに

<国の動き>

我が国における急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、日本全体、特に地方の人口の減少に歯止めをかけるとともに、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していく喫緊の課題に対応するため「まち・ひと・しごと創生法」が平成26年11月に制定され、平成26年12月27日に人口の現状と将来展望を示す「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び今後5か年の施策の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定された。

「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の策定から4年余りが経過した令和元年6月21日「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」が閣議決定され、第2期の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が令和元年12月20日に閣議決定された。

<小清水町の動き>

上記を受けて、小清水町では平成27年11月に策定した「小清水町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を改訂し、令和2年3月、急速な人口減少・少子高齢化問題に対応し、かつ、「未来につながるまちづくり～みんなで創るずっと住みたい大自然のまち～」という将来像の実現に向けて、「第2次小清水町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。

この「第2次小清水町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の検討基礎資料として、町の人口動向分析や将来展望等をまとめた「小清水町人口ビジョン（令和元年度見直し版）」をここに策定する。

本資料が、今後の町のあり方について町民・企業・行政が一丸となって議論し、また、施策推進に取り組んでいくための共通理解を醸成するために活用させることを期待するものである。

2 人口の現状分析

2-1 人口動向分析

過去から現在に至る人口の推移を把握し、その背景を分析することにより、講ずべき施策の検討材料を得ることを目的として、時系列により人口動向や年齢階級別の人口移動分析を行う。

2-1-1 時系列による人口動向分析

(1) 総人口の推移と将来推計

小清水町では、戦後人口増加したが、昭和 35（1960）年 11,517 人をピークに人口減少が続き、平成 27（2015）年には 5,085 人まで減少した。

令和 2（2020）年以降の国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計によれば、今後、人口は急速に減少を続け、令和 27（2045）年には、3,140 人（現在から 38%減少）になるものと推計されている。

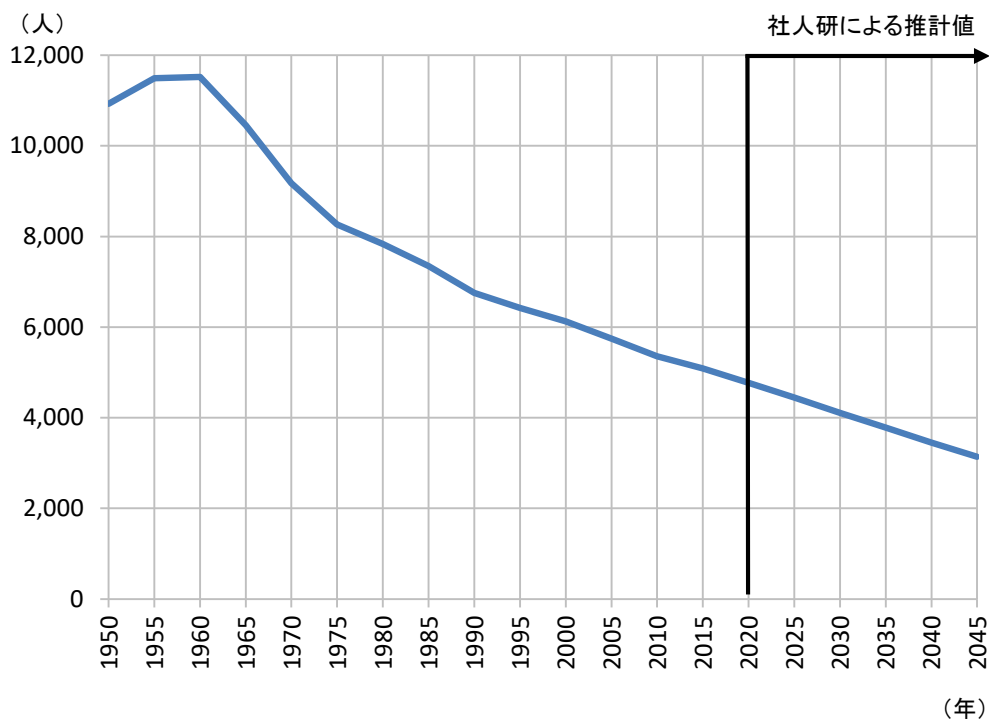


図 2-1 総人口の推移と将来推計

(資料) 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計（平成 30 年推計）」

(2) 年齢3区分別人口の推移

生産年齢人口は、現在まで減少傾向が続いており、令和 27 (2045) 年には老年人口と同程度になると推計されている。

年少人口は、出生数の低下等により現在まで減少傾向は続き、平成 7 (1995) 年には老年人口を下回った。

一方、老年人口は、生産年齢人口が順次老年期に入り、また、平均寿命が延びたことから一貫して増加、社人研では令和 2 (2020) 年まで増加を続けると推計している。

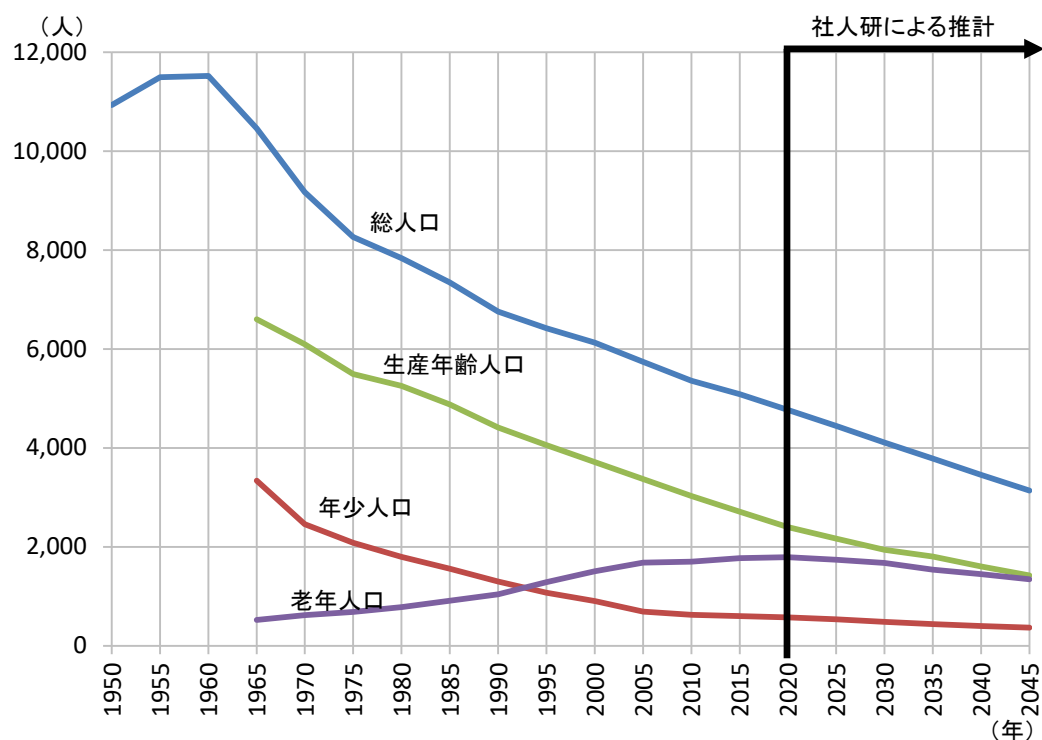


図 2-2 年齢3区分人口の推移

(資料) 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計 (平成 30 年推計)」

(3) 出生・死亡、転入・転出の推移

出生数は、出生率の低下・母親世代人口の減少の影響により緩やかな減少基調にある一方、死亡数は高齢者数の増加に伴い増加傾向にある。近年では、平成8(1996)年に出生数が死亡数を上回る「自然増」となったが、以降「自然減」が続いている。

社会増減(転入数-転出数)は、近年では一貫して転出超過(「社会減」)が続いている。

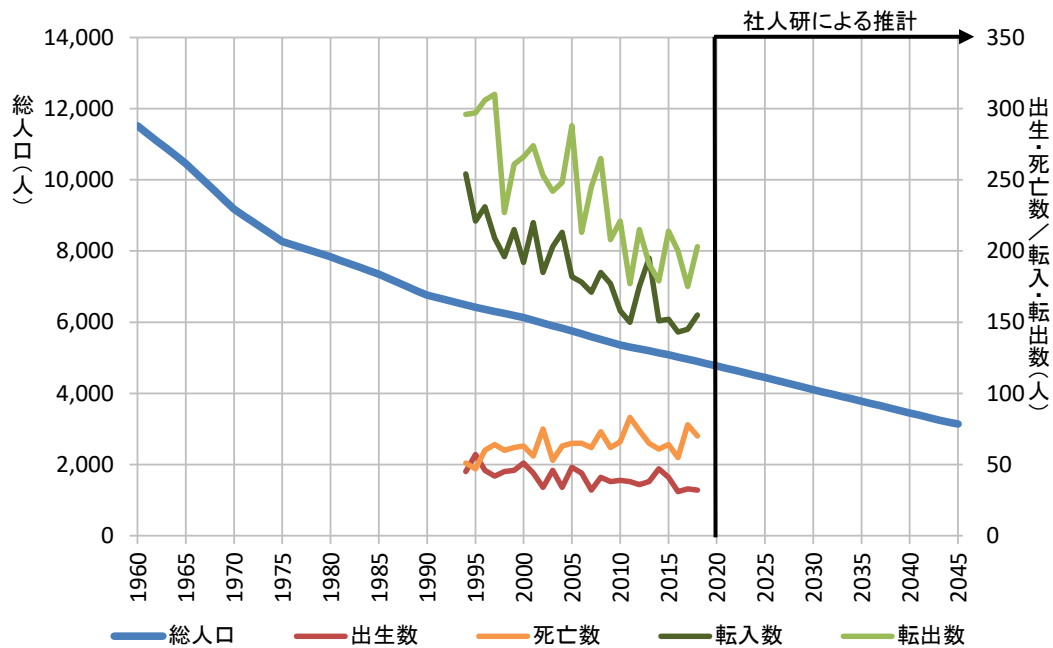


図 2-3 出生・死亡、転入・転出の推移

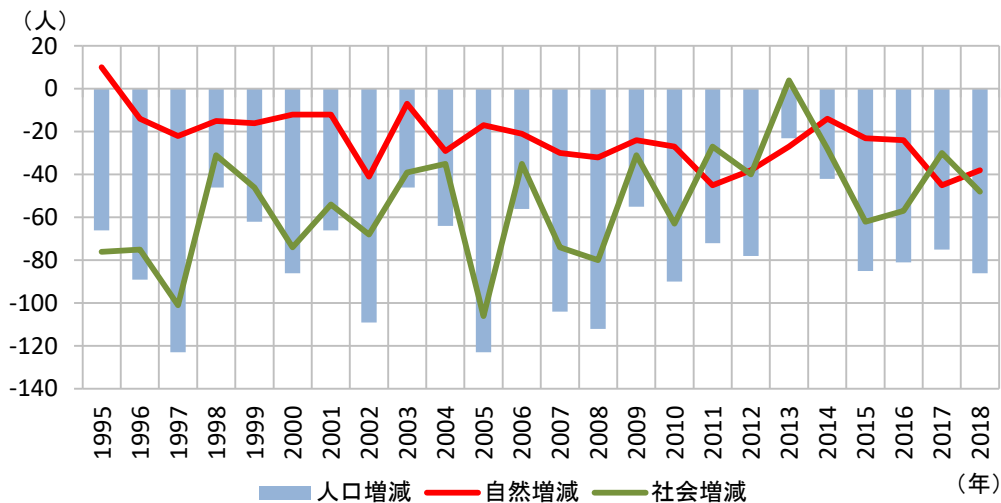


図 2-4 近年の自然・社会増減の状況

(資料) 総務省「国勢調査」、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」、
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計(平成30年推計)」

(4) 総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響

近年 20 年間についてみると、平成 8 (1996) 年に自然増となった以外は、「自然減」、「社会減」を続けており、深刻な人口減少局面で推移している。

平成 22 (2010) 年以降は、社会減数が小さくなる一方、自然減数が大きくなる傾向にある。

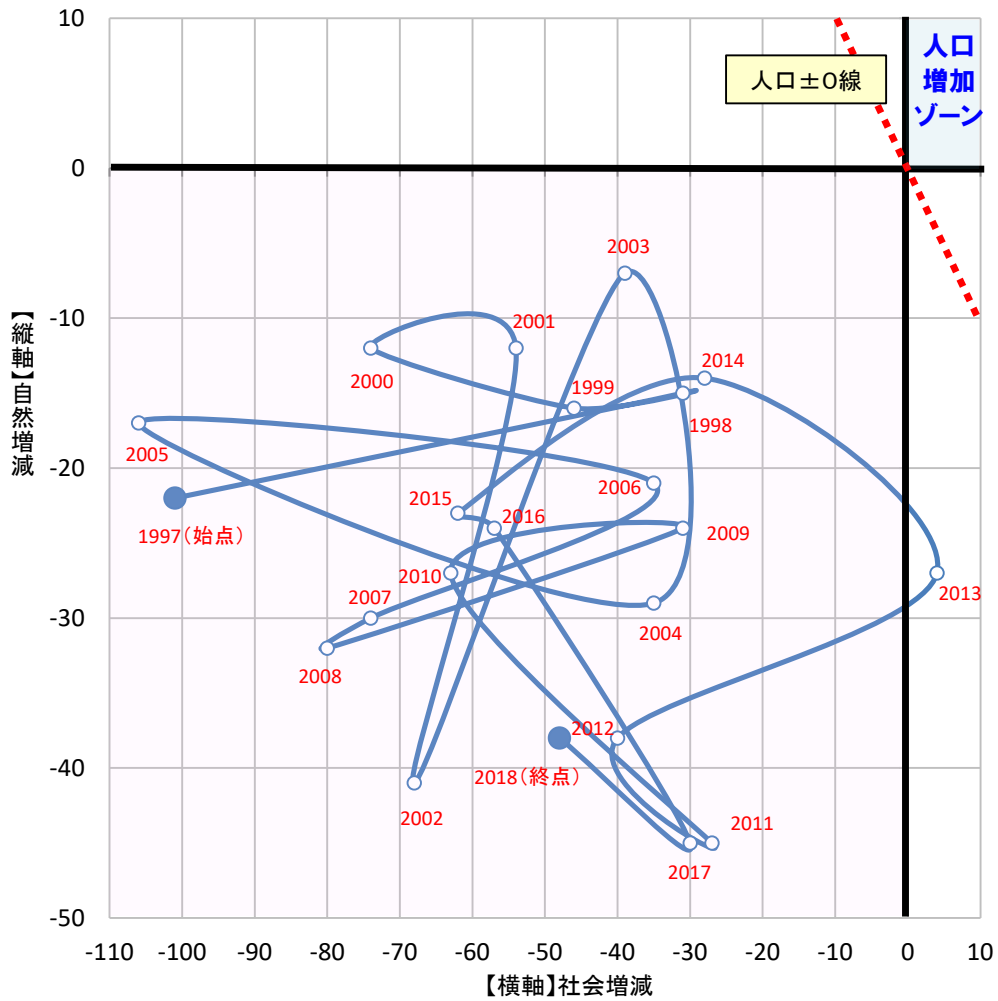


図 2-5 自然増減と社会増減の影響

(資料) 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

2-1-2 年齢階級別人口動向分析

(1) 性別・年齢階級別の移動人口の状況

男性・女性ともに、10～14歳から15～19歳になるとき、及び、15～19歳から20～24歳になるときに大幅な転出超過となっている一方、20～24歳から25～29歳になるときに、転入超過となっている。

これらは、高校や大学等への進学に伴う転出、及び大学等卒業後のUターン就職に伴う転入の影響であると考えられるが、15～19歳から20～24歳になるときの転出超過数に比べて、20～24歳から25～29歳になるときの転入超過数は小さい。

20歳代後半から40歳代の子育て・働き盛り世代においては、25～29歳から30～34歳になるとき、30～34歳から35～39歳になるとき、35～39歳から40～44歳になるときは男性・女性ともに転入超過となっている。

60歳代以上では、60～64歳から65～69歳になるときの男性、75～79歳から80～84歳になるとき以降の女性の転出超過も大きい。

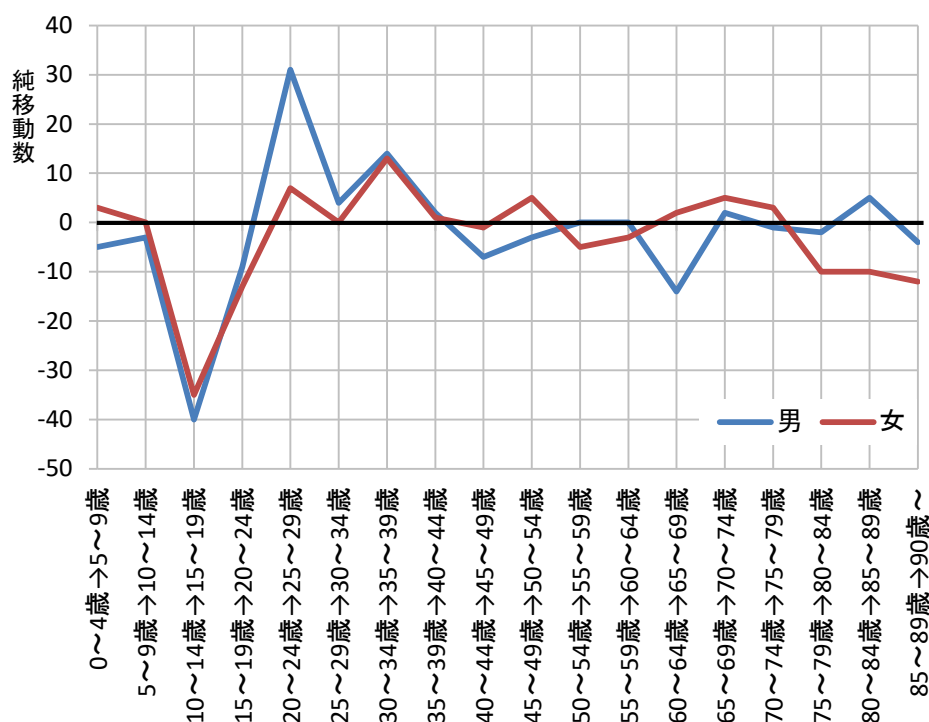


図 2-6 平成 22 (2010) 年→平成 27 (2015) 年の性別・年齢階級別移動人口

(資料) 総務省「国勢調査」(まち・ひと・しごと創生本部提供データ)

(2) 性別・年齢階級別の移動人口の状況の長期的動向

①男性

10～14 歳から 15～19 歳になるとき、及び、15～19 歳から 20～24 歳になるときにみられる大幅な転出超過は、長期的動向においても同様な傾向がみられる。これらの転出超過数は長期的にみて縮小傾向にある。

一方、20～24 歳から 25～29 歳になるときの転入超過は、概ね 10～30 人程度の幅で推移している。

この 2 つの大幅な転出超過と 1 つの大幅な転入超過を比較（転入超過数－転出超過数）すると、概ね-40～-150 人程度となっており、10 歳代後半から 20 歳代前半の若い男性が長期的に流出していることがわかる。

また、20 歳代後半から 60 歳代前半は長期的に転出超過傾向であるものの、近年その幅は縮小し、平成 22（2010）年→平成 27（2015）年の断面では、新たに 20 歳代後半から 40 歳代前半となる層は転入超過となっている。

②女性

10～14 歳から 15～19 歳になるとき、及び、15～19 歳から 20～24 歳になるときにみられる大幅な転出超過は、長期的動向においても同様な傾向がみられる。これらの転出超過数は長期的にみて縮小傾向にある。

一方、20～24 歳から 25～29 歳になるときの転入超過は、概ね 1～40 人程度の幅で推移している。

この 2 つの大幅な転出超過と 1 つの大幅な転入超過を比較（転入超過数－転出超過数）すると、概ね-70～-220 人程度となっている。10 歳代後半から 20 歳代前半の若い女性が長期的に流出しており、近年 10 年間の流出数は同年代の男性の 1.4 倍である。

また、20 歳代後半から 40 歳代の子育て世代では、平成 22（2010）年→平成 27（2015）年では転入超過となっている。

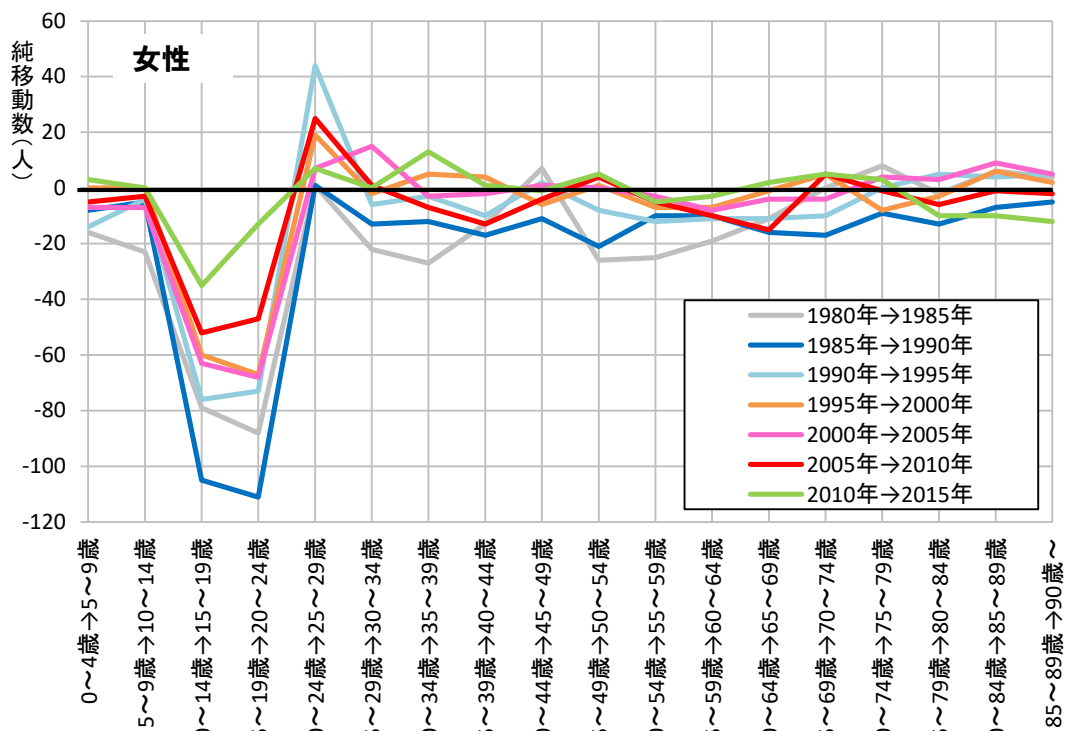
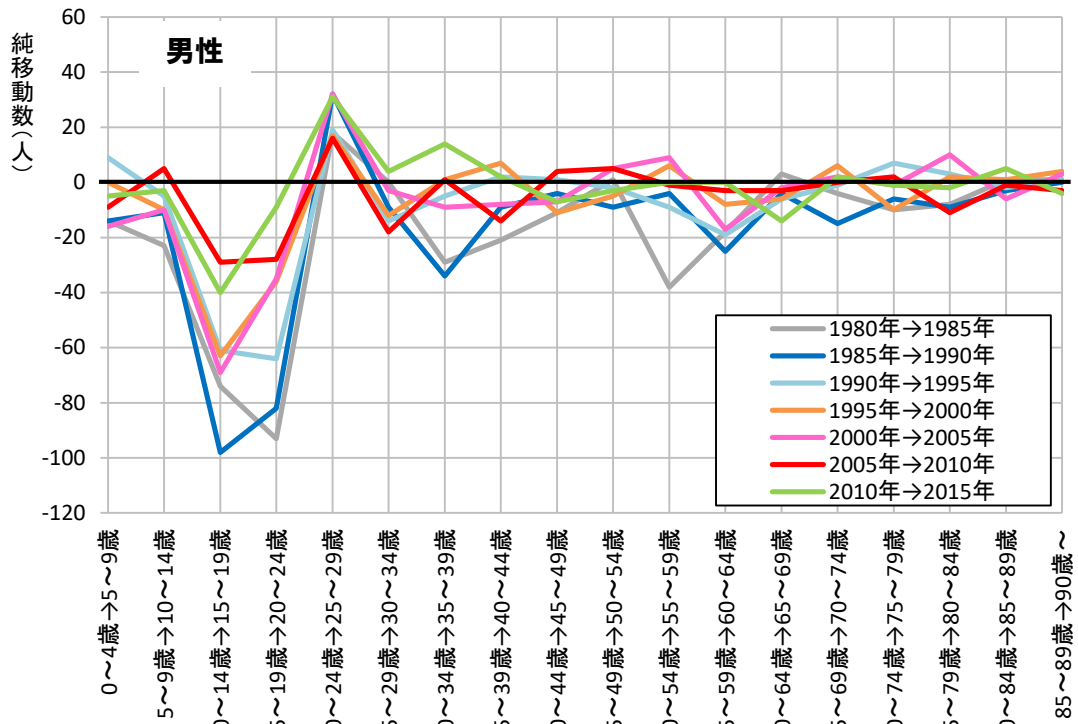


図 2-7 年齢階級別移動人口の長期的動向

(資料) 総務省「国勢調査」(まち・ひと・しごと創生本部提供データ)

(3) 人口移動の最近の状況

平成 29～30（2017～2018）年の 2 年間についてみると、転入者数は各々 130 人、149 人であり、概ね 80%以上は道内からの転入者である。

転出者数では、平成 29（2017）年 168 人、平成 30 年（2018）年 190 人であり、転入者と同様にその概ね 80%以上が道内への転出者となっている。

社会増減（転入－転出）は、平成 29（2017）年は 38 人、平成 30（2018）年は 41 人の社会減となった。

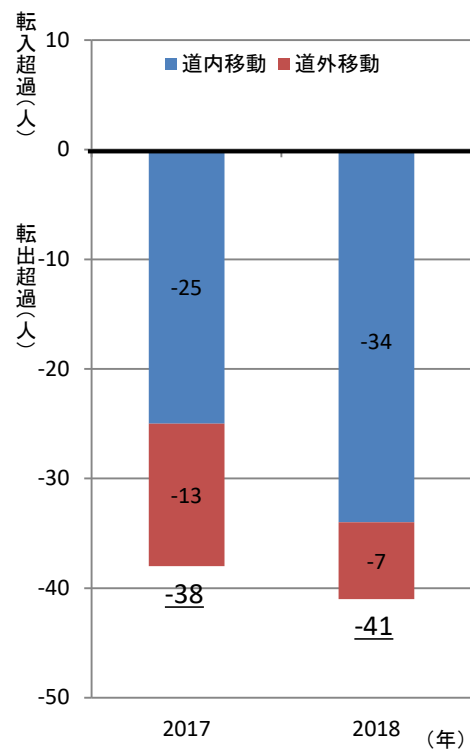
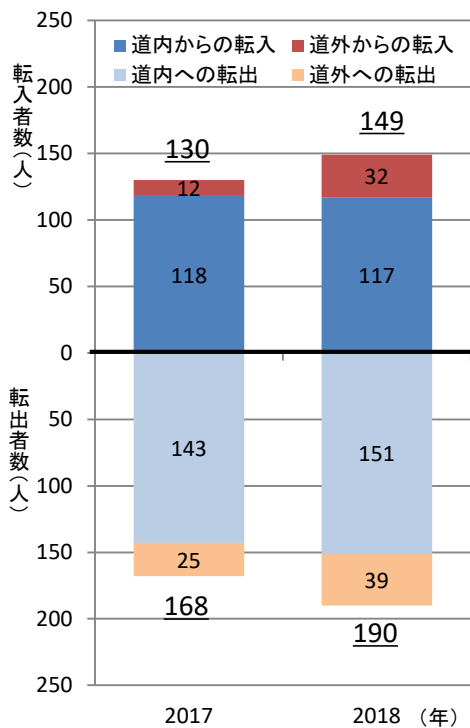


図 2-8 道内外への人口移動の状況

図 2-9 道内外との社会増減の状況

(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」(まち・ひと・しごと創生本部提供データ)

(4) 年齢階級別の人口移動状況

平成 29～30（2017～2018）年の 2 年間についてみると、転出超過数（転入－転出）は概ね 40 人/年程度の減少となっている。

年齢階級では、平成 29（2017）年には全 19 階級のうち 12 階級、平成 30（2018）年には 11 階級で転出超過となっている。

このうち、高校卒業後の進学が理由と考えられる 15～19 歳は転出超過となっているものの、20 歳代、30 代後半が転入超過であることが特徴的である。

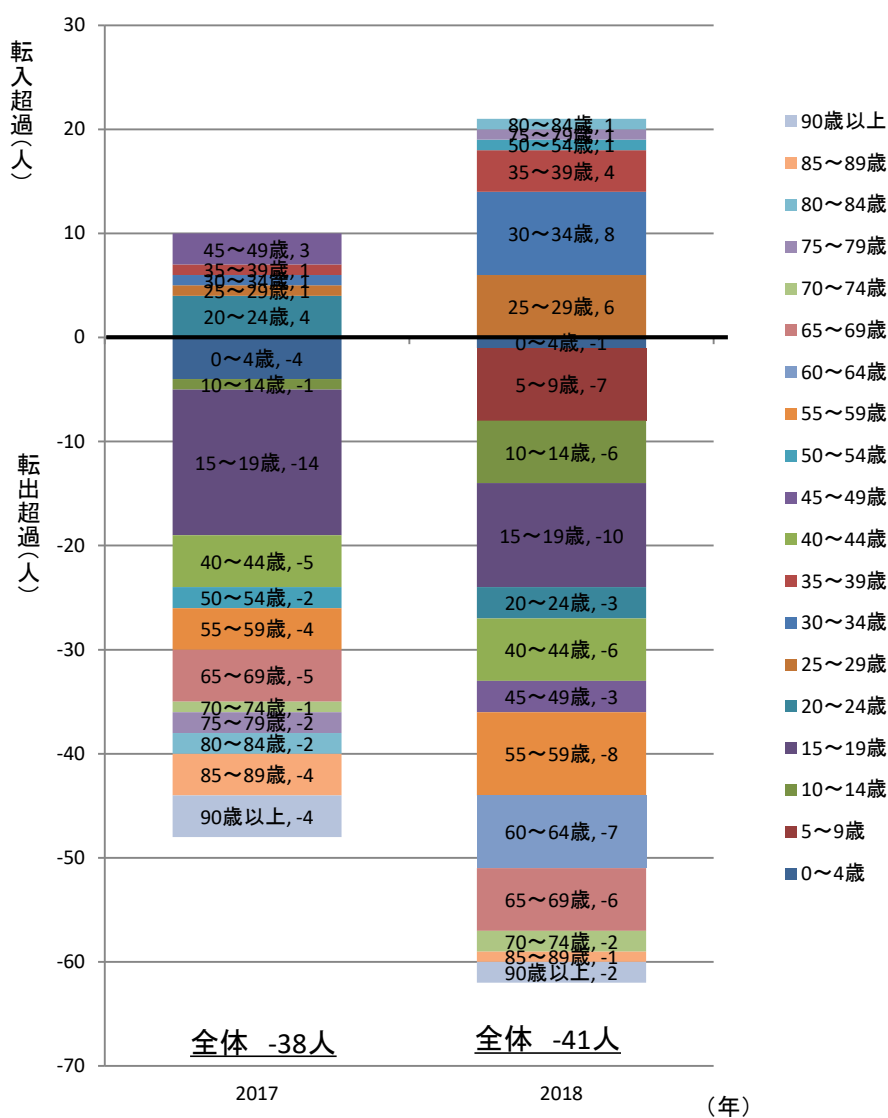


図 2-10 年齢階級別の人口移動（純移動数）の状況

（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告」（まち・ひと・しごと創生本部提供データ）

(5) 他自治体への人口移動の最近の状況

平成 30（2018）年の人口移動状況は、転入者は 149 人、転出者は 190 人であり、41 人の転出超過となっている。

転入先・転出先ともに、北見市、網走市、札幌市、道外が上位であり、北見市が転出超過数の 48.8%を占める。また旭川市と転入超過となっていることが特徴的である。

5 歳階級別の純移動状況を見ると、男女とも 15～19 歳、20～24 歳の階級で大きく移動しており、高校や大学・短期大学などの卒業と就職が契機となっていることがわかる。とりわけ、札幌市、道外へ転出超過が大きい。

この他、25～29 歳の女性で斜里町に転出超過となっていることが特徴的である。

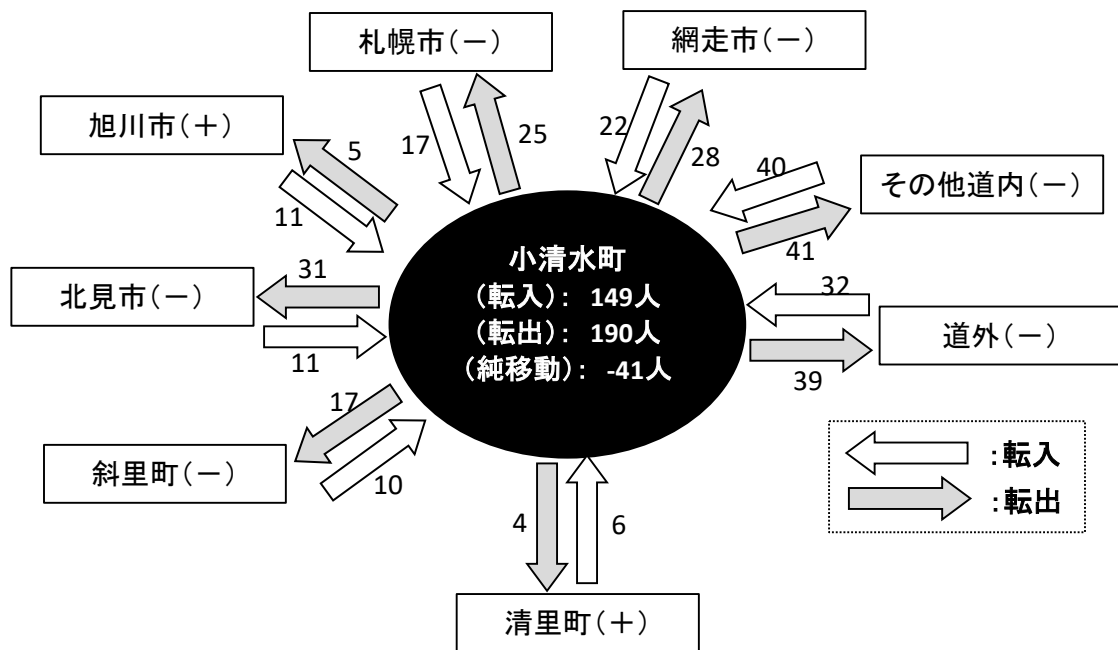


図 2-11 他自治体への転入・転出・純移動の状況（平成 30 年）

(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」(まち・ひと・しごと創生本部提供データ)

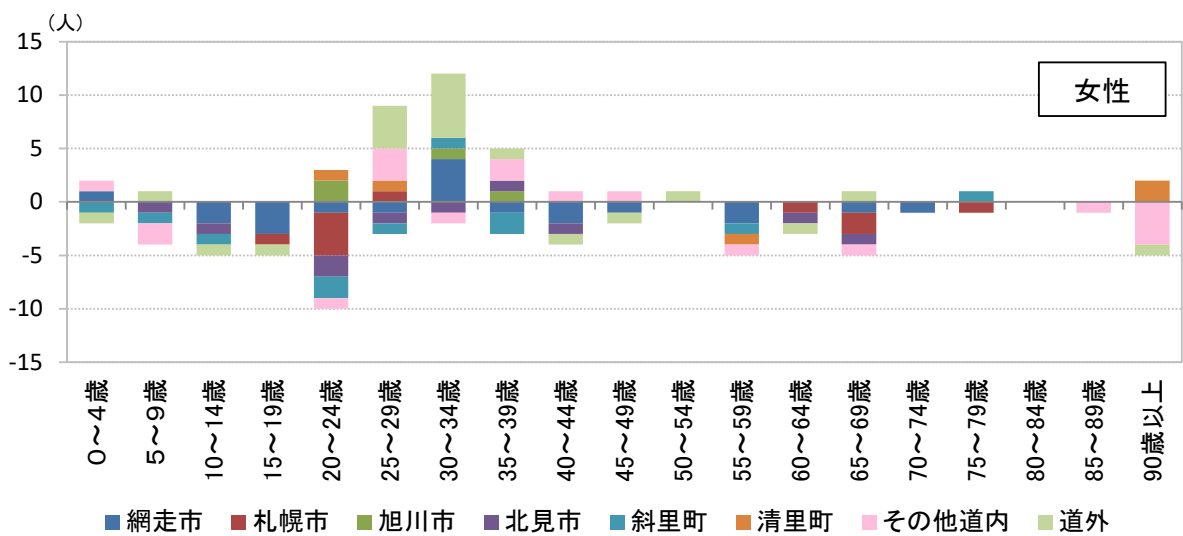
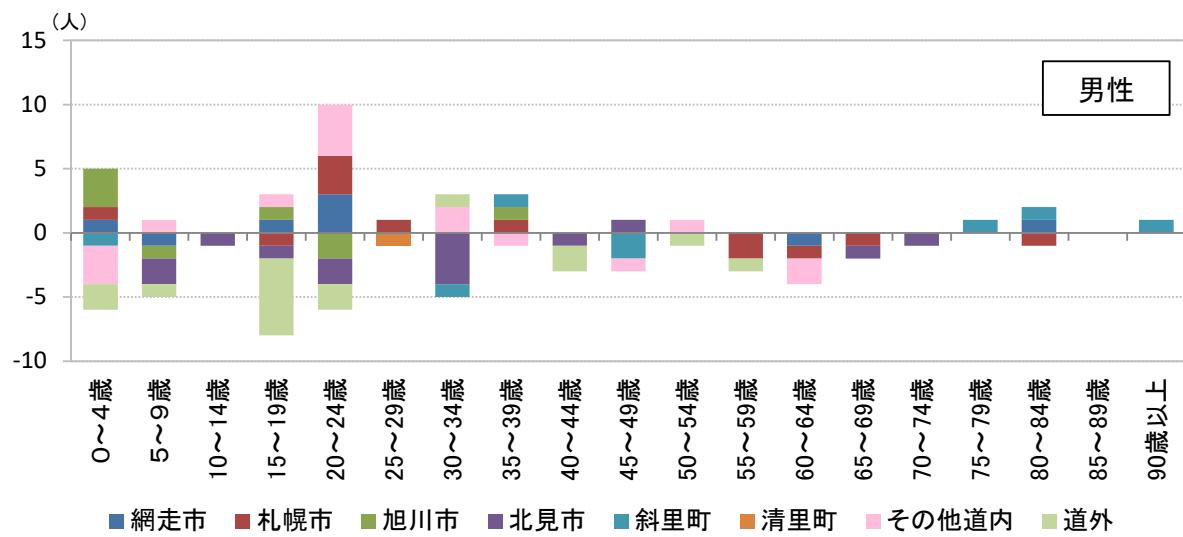
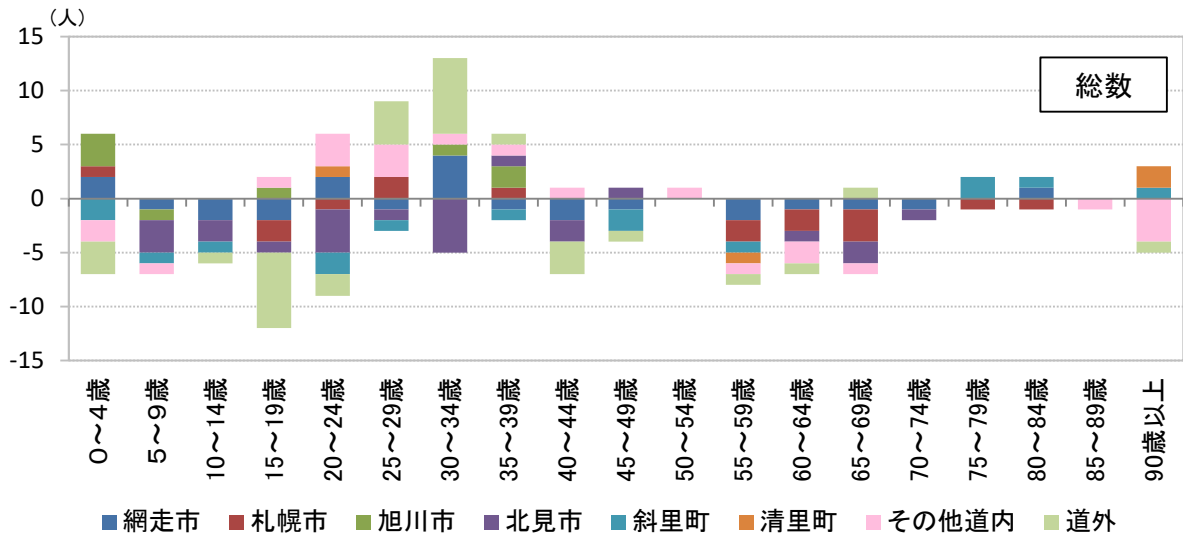


図 2-12 年齢階級別にみた他自治体への純移動の状況

(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」(まち・ひと・しごと創生本部提供データ)

2-1-3 出生に関する分析

1人の女性が一生に産む子供の数の平均数である「合計特殊出生率」の推移をみると、長期的には低下傾向にあるが、平成20～24（2008～2012）年には上昇に転じている。

しかしながら、15～49歳女性人口数は減少、それに伴い出生数も減少している。

小清水町では、全国や北海道に比べて高い水準で推移しているものの、国民希望出生率（1.8）や人口置換水準（2.07）には達しておらず、少子化傾向が続いている。

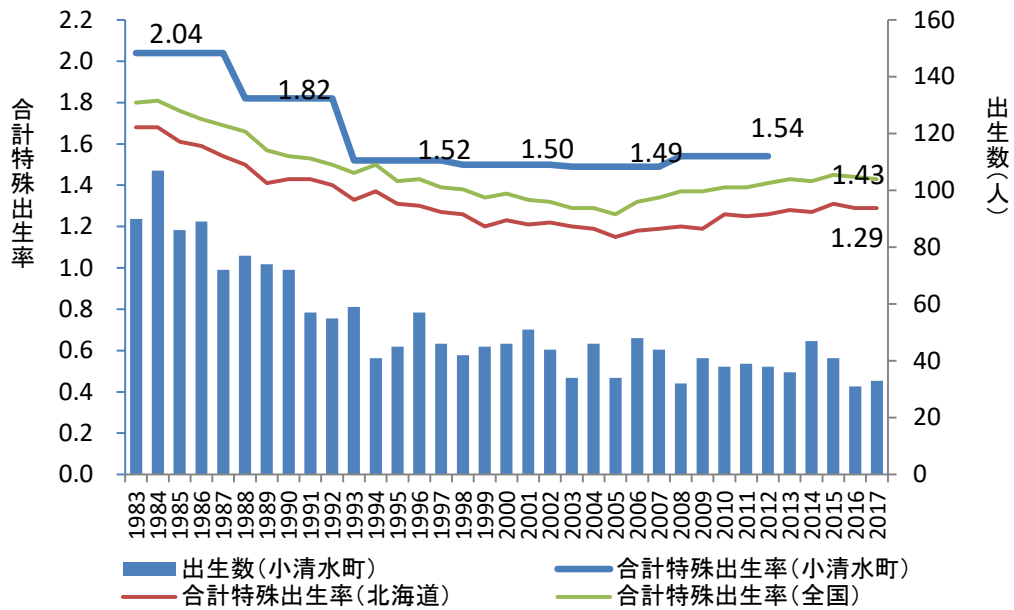


図 2-13 合計特殊出生率と出生数の推移

(資料) 厚生労働省「人口動態・市区町村別統計」、北海道「住民基本台帳人口・世帯数及び人口動態」

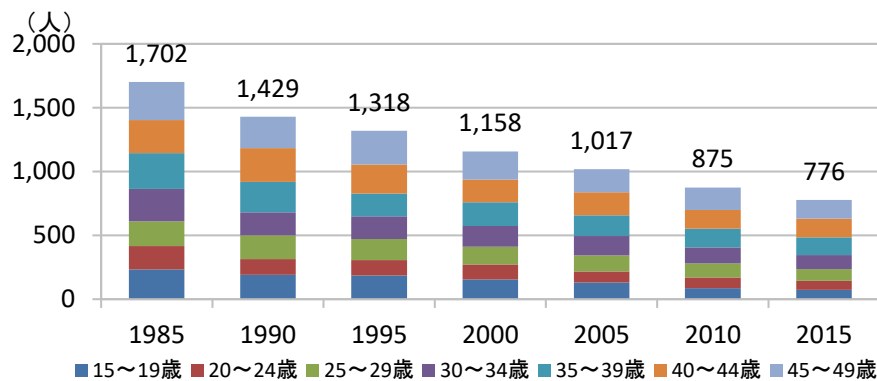


図 2-14 15歳～49歳女性人口の推移

(資料) 総務省「国勢調査」

※15～49歳女性人口：合計特殊出生率を算出する際に集計対象となる人口

2-1-4 雇用や就労に関する分析

(1) 男女別産業人口

産業人口は、男女ともに農業が圧倒的に多く、次いで男性では卸売・小売業、建設業、複合サービス事業、公務の順に多く、女性では医療・福祉、卸売・小売業、製造業、宿泊・飲食業の順に多くなっている。

特化係数（町の X 産業の就業者比率 / 全国の X 産業の就業者比率）でみると、農業については、男 11 女 12 と極めて高くなっている。また、男女ともに複合サービス事業や漁業、公務が高い係数となっている。この他、男性では鉱業、採石業、砂利採取業、女性では運輸・郵便業の係数も高い。

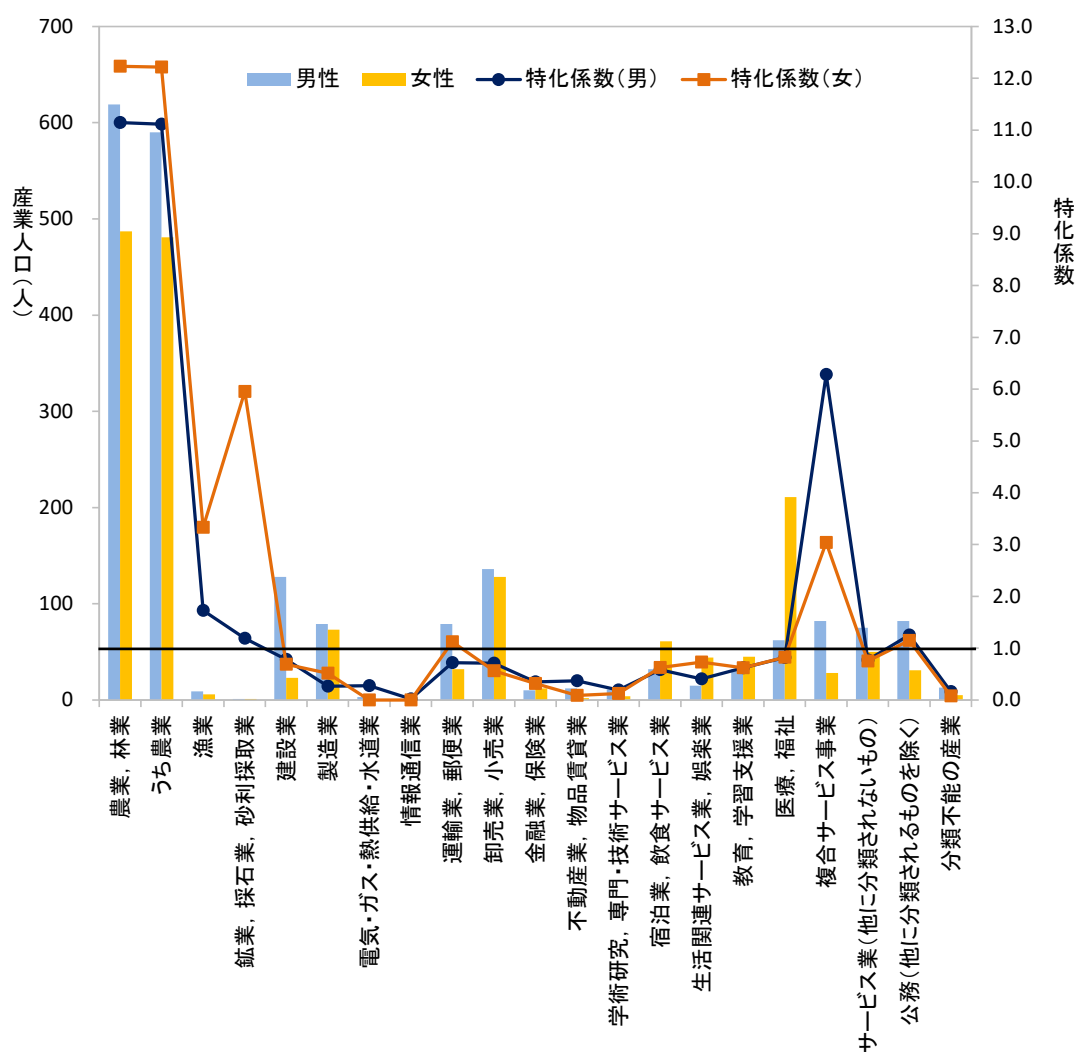


図 2-15 男女別産業人口の状況

(資料) 総務省「平成 27 年国勢調査」

(2) 年齢階級別産業人口

最も特化係数の高い農業については、男女とも約4割が60歳以上だが、30歳代以下も男性で約3割、女性で約2割となっている。

農業以外で特化係数の高かった複合サービス事業については、男女とも30歳代以下の比率が4割以上となっている。

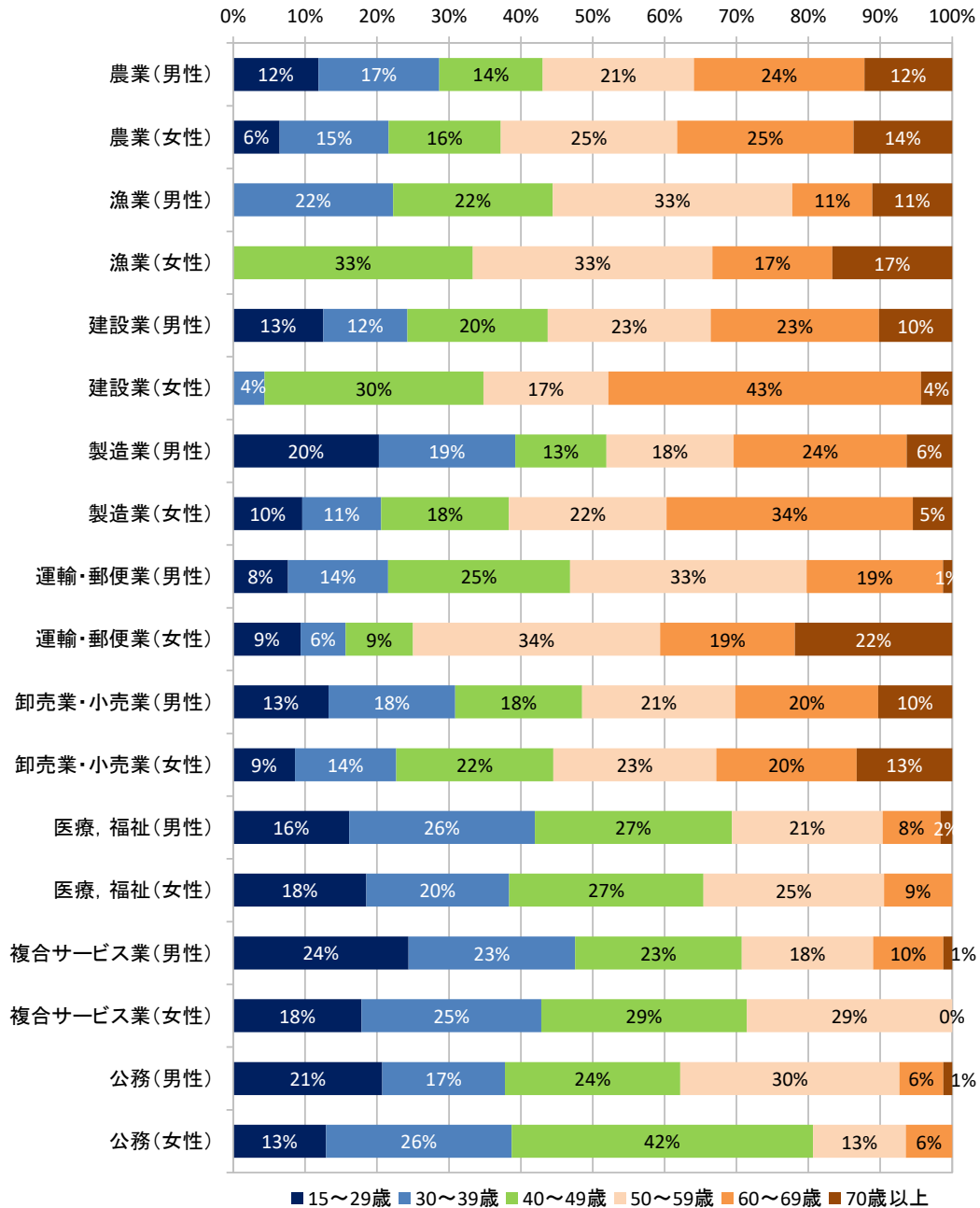


図 2-16 年齢階級別産業人口の状況

(資料) 総務省「平成27年国勢調査」

2-2 将来人口の推計と分析

社人研の「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年推計）」を活用し、将来の人口に及ぼす出生や移動等の影響について分析を行う。

2-2-1 将来人口推計

(1) 社人研準拠推計と小清水町人口ビジョン（平成 27 年推計）の総人口の比較

社人研準拠推計による総人口は、令和 27（2045）年 3,140 人、令和 47（2065）年 2,137 人となっている。

小清水町人口ビジョン（平成 27 年推計）よりも令和 27（2045）年段階で 336 人少ない推計となっている。

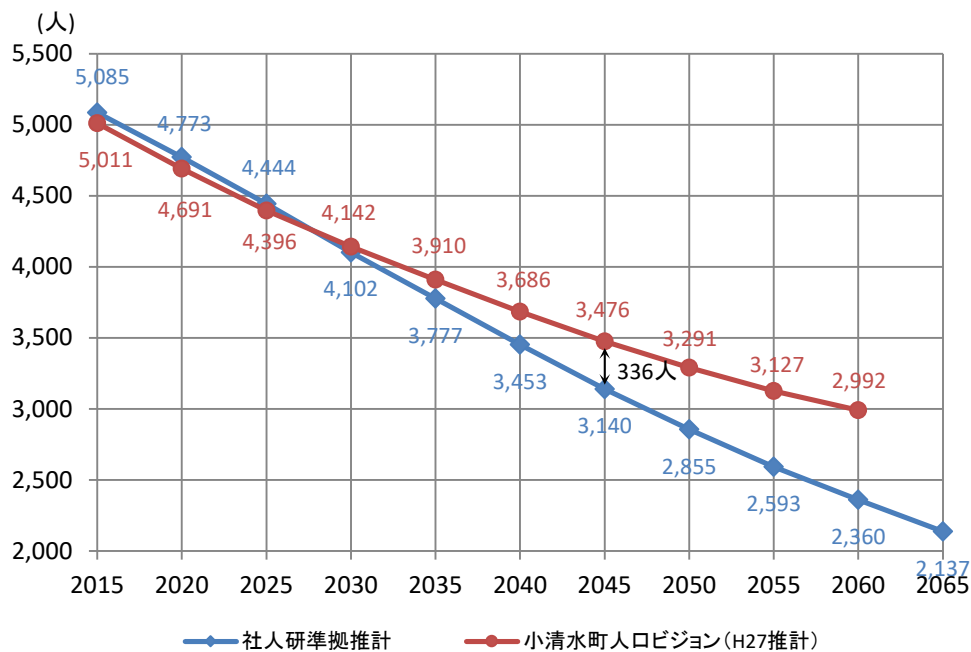


図 2-17 社人研準拠推計と小清水町人口ビジョン（平成 27 年推計）の総人口の比較

表 2-1 各パターンによる推計条件

推計パターン	推計条件
社人研準拠推計	社人研推計に準拠 2010 年から 2015 年の人口の動向を勘案して、2065 年まで推計
小清水町人口ビジョン （平成 27 年推計）	【出生率】 2015 年 1.64（社人研推計準拠）、2030 年 1.80、2040 年以降 2.00。 【移動率】 2030 年転出入数均衡。（0-14 歳増加、子育て世代[20 歳代後半～40 歳代後半]均衡、その他世代減少） 2060 年まで推計

（資料）まち・ひと・しごと創生本部提供ツール、小清水町人口ビジョン（平成 27 年推計）

(2) 人口減少段階の分析

社人研準拠推計によると平成 27（2015）年の人口を 100 とした場合の老年人口の指標は、令和 2（2020）年を境に維持・微減の段階に入り、令和 12（2030）年以降は減少段階に入る。

このため、小清水町の人口減少段階は、令和 2（2020）年以降に「第 2 段階」、令和 12（2030）年以降に「第 3 段階」に入ると推測される。

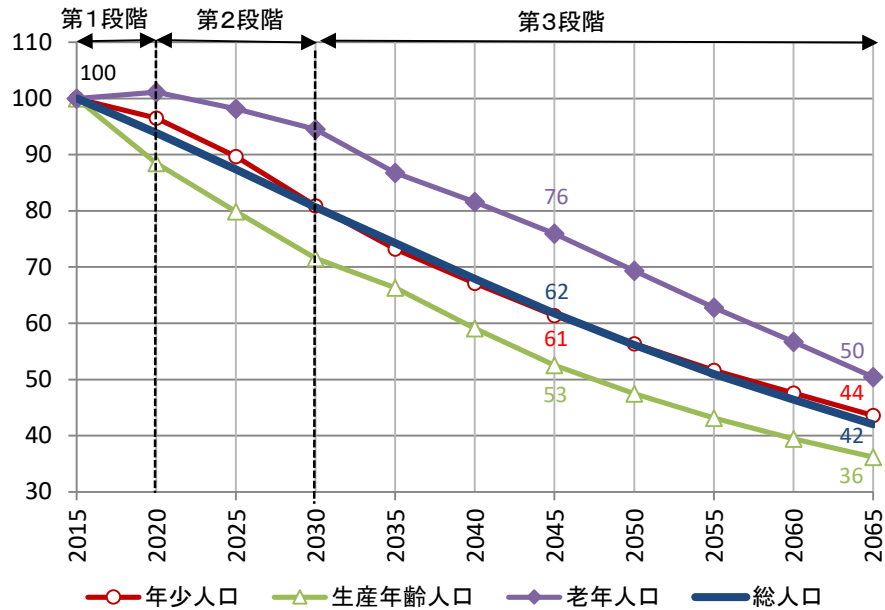


図 2-18 人口減少段階の分析

(注) 人口減少段階については、以下の 3 つの段階を経て進行するとされる。

第 1 段階：老年人口の増加＋年少・生産年齢人口の減少

第 2 段階：老年人口の維持・微減＋年少・生産年齢人口の減少

第 3 段階：老年人口の減少＋年少・生産年齢人口の減少

(資料) まち・ひと・しごと創生本部提供ツール

表 2-2 社人研準拠推計による令和 27（2045）年の人口減少段階

	平成 27 年 (2015 年)	令和 27 年 (2045 年)	平成 27 年を 100 とした場合の 令和 27 年の指数	人口減少 段階
老年人口	1,774	1,498	76	3
生産年齢人口	2,712	1,523	53	
年少人口	599	314	61	

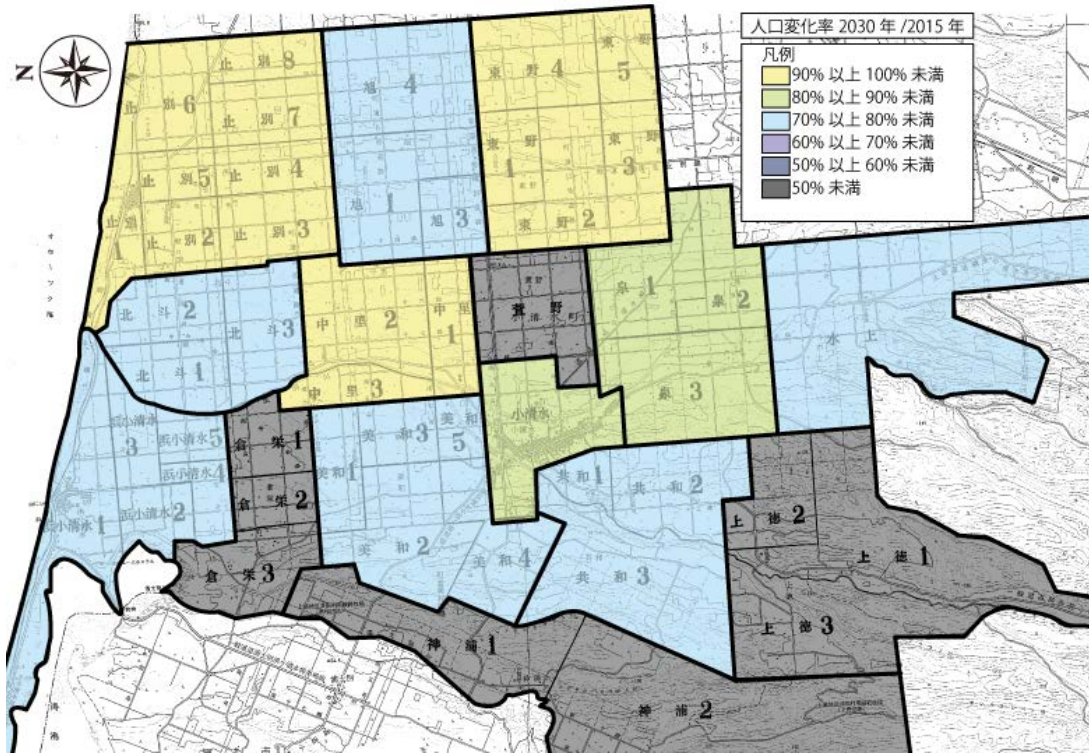
(3) 地区別人口の予測

社人研準拠推計と整合するかたちで、平成 22（2010）年と平成 27（2015）年の地区別年齢階層別男女別人口（国勢調査、小地域統計人口）をもとにコーホート要因法により地区別の将来人口を推計した。

表 2-3 地区別将来人口の見通し

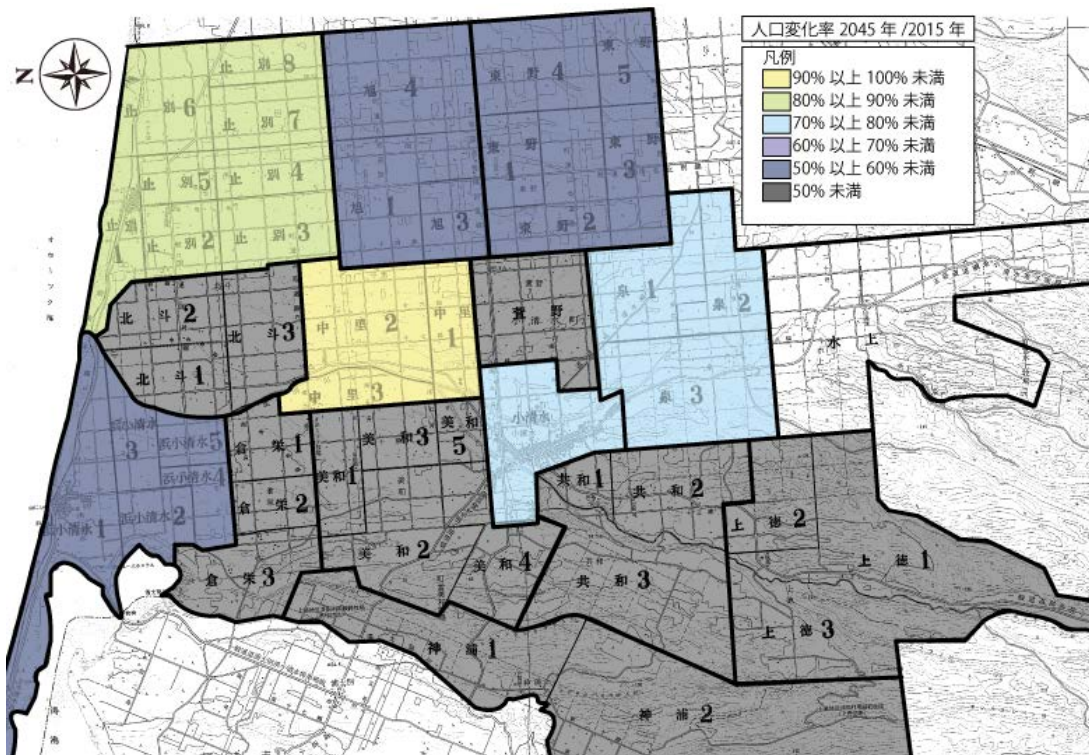
	年 次							変化率	
	2015 (H27)	2020 (R2)	2025 (R7)	2030 (R12)	2035 (R17)	2040 (R22)	2045 (R27)	2030 /2015	2045 /2015
小清水町	5,085	4,771	4,444	4,106	3,782	3,452	3,140	80.7%	61.8%
字小清水	2,770	2,653	2,513	2,348	2,198	2,031	1,872	84.8%	67.6%
1 区桜ヶ丘	58	37	23	17	11	6	3	29.3%	5.2%
1 区	250	249	245	224	209	202	190	89.6%	76.0%
2 区	269	258	234	214	206	200	189	79.6%	70.3%
3 区	147	153	160	162	170	176	179	110.2%	121.8%
4 区	176	173	168	151	126	107	94	85.8%	53.4%
5 区	210	192	184	173	161	144	127	82.4%	60.5%
6 区	171	145	118	93	69	53	37	54.4%	21.6%
7 区川東	170	173	166	161	156	147	140	94.7%	82.4%
7 区	157	168	181	201	206	198	179	128.0%	114.0%
8 区北	240	212	185	165	151	139	131	68.8%	54.6%
9 区北	290	269	263	239	228	215	200	82.4%	69.0%
1 0 区	201	213	208	199	207	182	180	99.0%	89.6%
1 1 区	173	158	125	109	88	80	70	63.0%	40.5%
8 区南	163	168	178	180	168	146	122	110.4%	74.8%
9 区南	95	85	75	60	42	36	31	63.2%	32.6%
字止別	362	348	331	326	322	316	308	90.1%	85.1%
字浜小清水	349	324	293	261	233	211	182	74.8%	52.1%
字美和	174	156	143	129	115	100	87	74.1%	50.0%
字北斗	153	143	130	109	88	67	47	71.2%	30.7%
字中里	173	159	154	162	169	169	165	93.6%	95.4%
字旭	186	172	154	139	127	111	92	74.7%	49.5%
字東野	206	205	201	188	162	137	120	91.3%	58.3%
字萱野	50	30	13	5	3	1	1	10.0%	2.0%
字泉	131	124	120	115	114	111	105	87.8%	80.2%
字水上	148	133	129	111	91	76	61	75.0%	41.2%
字共和	201	182	165	143	123	105	90	71.1%	44.8%
字上徳	40	33	25	17	11	5	3	42.5%	7.5%
字神浦	83	63	41	28	12	4	3	33.7%	3.6%
字倉栄	59	46	32	23	14	8	6	39.0%	10.2%
字もこと山	0	0	0	0	0	0	0	-	-

国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V2（H27 国調対応版）により作成



国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V2 (H27 国調対応版) の推計結果をもとに作成

図 2-19 地区別人口変化率の予測 (2030年/2015年)



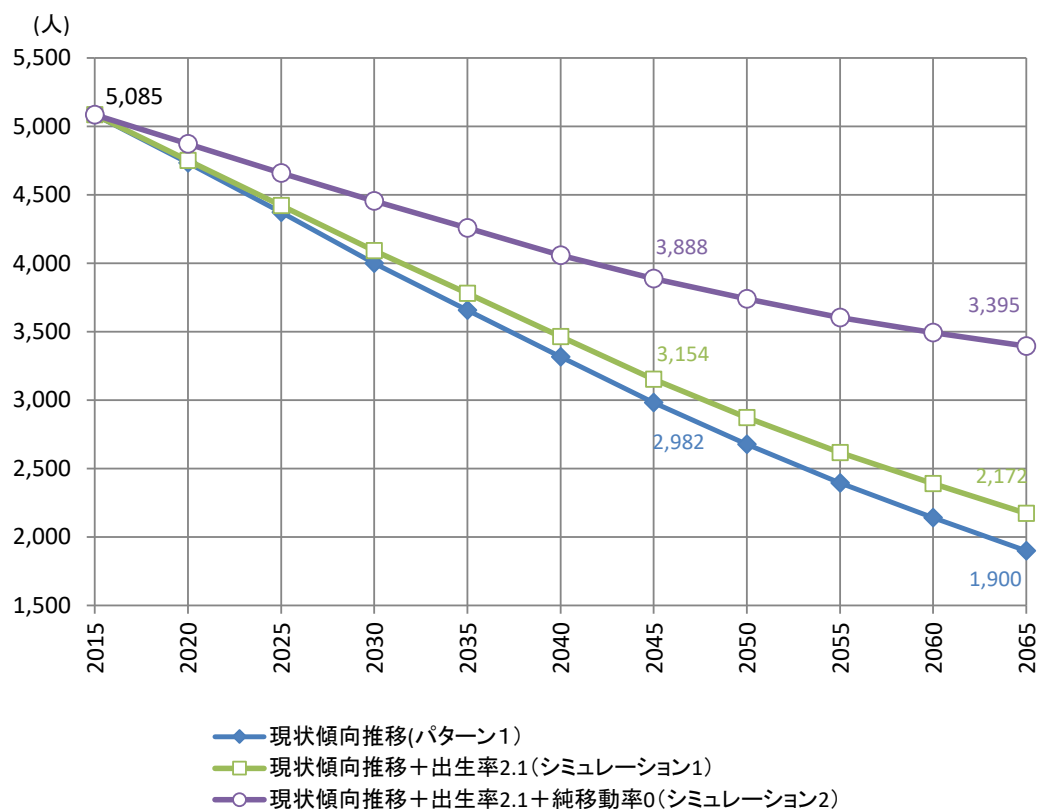
国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V2 (H27 国調対応版) の推計結果をもとに作成

図 2-20 地区別人口変化率の予測 (2045年/2015年)

2-2-2 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度分析

(1) 総人口の分析

近年の出生・死亡・移動等の傾向が継続した場合（現状傾向推移：パターン1）とした場合、令和27（2045）年の人口は2,982人となる。これをベースに合計特殊出生率が人口置換水準2.1まで上昇した場合（シミュレーション1）3,154人、さらに人口移動が均衡した場合（シミュレーション2）では、3,888人と推計される。



(資料) まち・ひと・しごと創生本部提供ツール

図 2-21 総人口の分析

表 2-4 各パターンの推計条件

推計パターン	推計条件
現状傾向推移 (パターン1)	近年の出生・死亡・移動等の傾向が継続すると仮定して、令和47(2065)年まで推計。(出生率：現状維持、死亡率及び移動率：社人研推計準拠)
現状傾向維持+出生率2.1 (シミュレーション1)	現状傾向推移(パターン1)において合計特殊出生率が令和12(2030)年までに人口置換水準(=2.1)まで上昇すると仮定。
現状傾向維持 +出生率2.1+純移動率0 (シミュレーション2)	シミュレーション1かつ移動(純移動率)がゼロ(均衡)で推移すると仮定

(2) 自然増減、社会増減の影響度分析

近年の出生・死亡・移動等の傾向が継続した場合（現状傾向推移：パターン1）をベースにして将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度を分析すると、自然増減の影響度が「3（影響度 105～110%）」、社会増減の影響度が「4（影響度 120～130%）」となっている。

このため、出生率上昇につながる施策に加えて、人口の社会増をもたらす施策に重点を置いて取り組むことが、人口減少度合いを抑制すること、さらには歯止めをかける上で効果的であると考えられる。

表 2-5 自然増減、社会増減の影響度の分析

分類	計算方法	影響度
自然増減の影響度	現状傾向推移＋出生率2.1（シミュレーション1）の 2045年推計人口＝3,154(人) 現状傾向推移（パターン1）の2045年推計人口＝2,982(人) ⇒3,154(人)/2,982(人)=105.8%	3
社会増減の影響度	現状傾向推移＋出生率2.1＋純移動率0（シミュレーション2）の 2045年推計人口＝3,888(人) 現状傾向推移＋出生率2.1（シミュレーション1）の 2045年推計人口＝3,154(人) ⇒3,888(人)/3,154(人)=123.3%	4

(注) 自然増減の影響度 (1:100%未満、2:100～105%、3:105～110%、4:110～115%、5:115%以上)
社会増減の影響度 (1:100%未満、2:100～110%、3:110～120%、4:120～130%、5:130%以上)

(資料) まち・ひと・しごと創生本部提供ツール

(3) 人口構造の分析

年齢3区分毎にみると、近年の出生・死亡・移動等の傾向が継続した場合（現状傾向推移：パターン1）と比較して、これをベースに合計特殊出生率が人口置換水準2.1に上昇した場合（シミュレーション1）においては「0～14歳人口」の減少率は小さくなり、さらに純移動率が均衡（シミュレーション2）した場合、その減少率はさらに小さくなる。

一方、「15～64歳人口」と「65歳以上人口」は、現状傾向推移（パターン1）と比べて合計特殊出生率の上昇（シミュレーション1）では大きな差はないが、純移動率が均衡した場合（シミュレーション2）の減少率は大幅に小さくなる。

また、「20～39歳女性」は、現状傾向推移（パターン1）では49.6%の減少率となっているが、これをベースに合計特殊出生率の上昇かつ純移動率均衡の場合（シミュレーション2）では10.2%となり、減少率が大幅に縮小する。

表 2-6 推計毎の人口構造と人口増減率

		総人口	0-14歳		15-64歳	65歳以上	20-39歳女性
			うち0-4歳				
2015年	現状値	5,085	599	203	2,712	1,774	413
2045年	現状傾向推移（パターン1）	2,982	275	82	1,361	1,347	208
	現状傾向推移＋出生率2.1（シミュレーション1）	3,154	389	121	1,417	1,347	222
	現状傾向推移＋出生率2.1＋純移動率0（シミュレーション2）	3,888	558	189	1,851	1,479	371

		総人口	0-14歳		15-64歳	65歳以上	20-39歳女性
			うち0-4歳				
2015年 → 2045年	現状傾向推移（パターン1）	-41.4%	-54.1%	-59.6%	-49.8%	-24.1%	-49.6%
	現状傾向推移＋出生率2.1（シミュレーション1）	-38.0%	-35.1%	-40.4%	-47.8%	-24.1%	-46.2%
	現状傾向推移＋出生率2.1＋純移動率0（シミュレーション2）	-23.5%	-6.8%	-6.9%	-31.7%	-16.6%	-10.2%

（資料）まち・ひと・しごと創生本部提供ツール

表 2-7 各パターンの推計条件

推計パターン	推計条件
現状傾向推移（パターン1）	近年の出生・死亡・移動等の傾向が継続すると仮定して、令和47（2065）年まで推計。（出生率：現状維持、死亡率及び移動率：社人研推計準拠）
現状傾向維持＋出生率2.1（シミュレーション1）	現状傾向推移（パターン1）において合計特殊出生率が令和12（2030）年までに人口置換水準（=2.1）まで上昇すると仮定。
現状傾向維持＋出生率2.1＋純移動率0（シミュレーション2）	シミュレーション1かつ移動（純移動率）がゼロ（均衡）で推移すると仮定

(4) 老年人口比率の変化（長期推計）

近年の出生・死亡・移動等の傾向が継続した場合（現状傾向推移：パターン1）とこれをベースに出生率を上昇させた場合（シミュレーション1）、さらに移動率が均衡した場合（シミュレーション2）について、令和27（2045）年時点の仮定を令和47（2065）年まで延長して推計した。

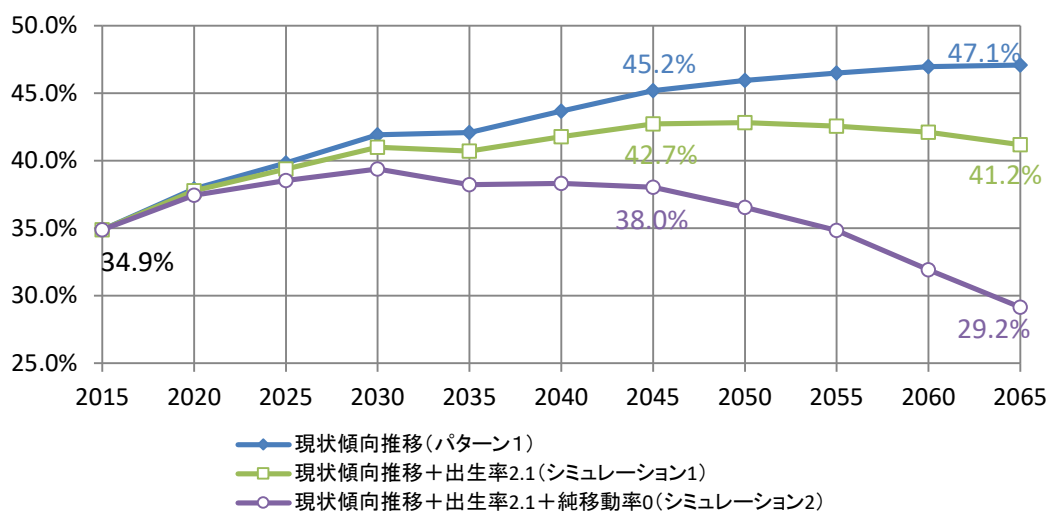
現状傾向推移（パターン1）では老年人口比率は増加が続き、令和47（2065）年47.1%となる。

一方、出生率を上昇させた推計（シミュレーション1）では、令和12（2030）年までに出生率が人口置換水準2.1まで上昇する仮定によって、人口構造の高齢化抑制効果が令和32（2050）年頃に現れ42.8%をピークに減少局面に入る。

さらに、純移動率が均衡した場合（シミュレーション2）では、人口構造の高齢化抑制効果が令和12（2030）年頃には現れ、39.4%をピークにその後減少することから、その効果は出生率上昇のみのシミュレーション1よりも高い。

表 2-8 平成27（2015）年から令和47（2065）年までの総人口・年齢3区分別人口比率

		2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
パターン1 (現状傾向推移)	総人口(人)	5,085	4,734	4,373	4,001	3,658	3,316	2,982	2,678	2,396	2,143	1,900
	年少人口比率	11.8%	11.4%	10.6%	9.6%	9.4%	9.3%	9.2%	9.2%	9.1%	9.0%	8.8%
	生産年齢人口比率	53.3%	50.7%	49.5%	48.5%	48.5%	47.0%	45.6%	44.9%	44.4%	44.0%	44.1%
	65歳以上人口比率	34.9%	37.9%	39.8%	41.9%	42.1%	43.7%	45.2%	45.9%	46.5%	47.0%	47.1%
	75歳以上人口比率	19.4%	20.8%	24.1%	26.5%	27.8%	29.1%	28.4%	29.8%	31.2%	32.0%	32.2%
シミュレーション1 (現状傾向推移+ 出生率2.1)	総人口(人)	5,085	4,751	4,421	4,092	3,781	3,465	3,154	2,874	2,617	2,390	2,172
	年少人口比率	11.8%	11.7%	11.6%	11.6%	12.1%	12.3%	12.3%	12.5%	12.7%	12.9%	13.1%
	生産年齢人口比率	53.3%	50.5%	49.0%	47.4%	47.2%	45.9%	44.9%	44.7%	44.8%	45.0%	45.8%
	65歳以上人口比率	34.9%	37.8%	39.4%	41.0%	40.7%	41.8%	42.7%	42.8%	42.5%	42.1%	41.2%
	75歳以上人口比率	19.4%	20.7%	23.8%	25.9%	26.9%	27.9%	26.9%	27.8%	28.6%	28.7%	28.2%
シミュレーション2 (現状傾向推移+ 出生率2.1、純移動率0)	総人口(人)	5,085	4,874	4,660	4,455	4,258	4,060	3,888	3,740	3,605	3,495	3,395
	年少人口比率	11.8%	11.8%	11.9%	12.1%	13.0%	13.8%	14.4%	15.1%	15.7%	16.0%	16.2%
	生産年齢人口比率	53.3%	50.8%	49.6%	48.5%	48.7%	47.9%	47.6%	48.4%	49.5%	52.1%	54.7%
	65歳以上人口比率	34.9%	37.4%	38.5%	39.4%	38.2%	38.3%	38.0%	36.5%	34.8%	31.9%	29.2%
	75歳以上人口比率	19.4%	20.8%	23.4%	25.0%	25.4%	25.7%	24.2%	24.1%	23.8%	22.7%	21.1%



(資料) まち・ひと・しごと創生本部提供ツール

図 2-22 老年人口比率の長期推計

2-3 人口の変化が地域の将来に与える影響

人口の減少が続いた場合の、将来の地域住民の生活や地域経済、地方行政に与える影響について整理・分析する。

2-3-1 財政状況への影響

(1) 財政の状況

町の普通会計の歳入は、地方交付税に依存しており、平成 29 (2017) 年度では歳入の 42%を依存している。このため、義務的経費を除いた経常的経費に充当する一般財源の確保が困難な状況にある。

義務的経費の内訳をみると、人件費・公債費が大きく縮小する一方で、扶助費（社会保障費）は増加傾向にあり、平成 29 (2017) 年度には 10 年前と比べて 1.54 倍となっている。今後、高齢化の進行に合わせて、扶助費は増加するものと予想される。

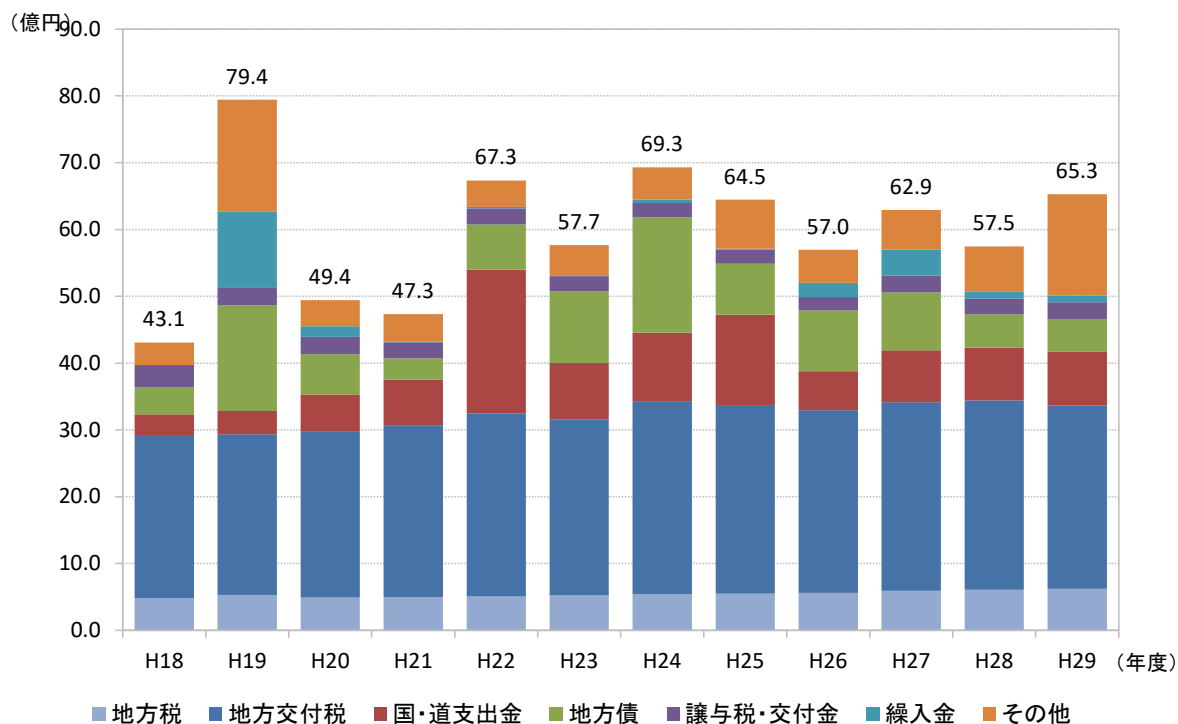


図 2-23 普通会計歳入の推移

(資料) 小清水町「決算状況 (地方財政状況調査 (決算統計))」

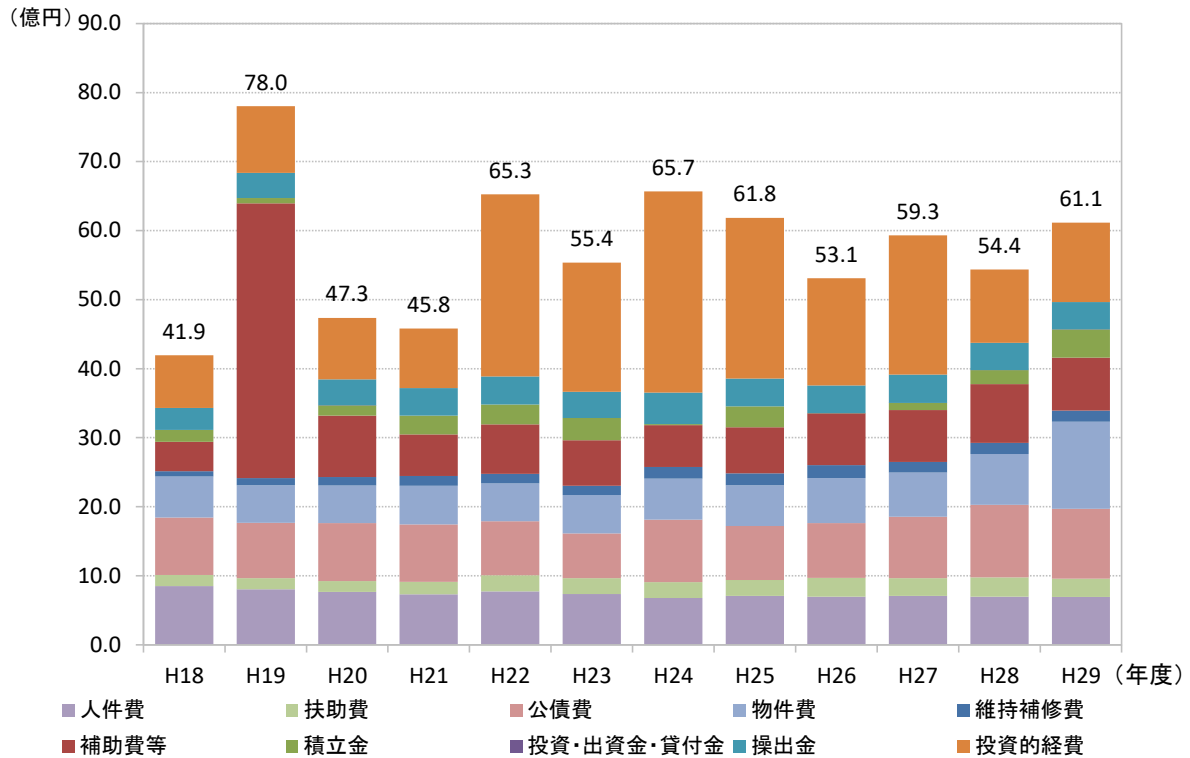


図 2-24 普通会計歳出の推移

(資料) 小清水町「決算状況 (地方財政状況調査 (決算統計))」

(2) 財政への影響

小清水町公共施設等総合管理計画において、人口減少に伴う町財政への影響を把握するため、社人研の将来推計人口を考慮して財政シミュレーションを実施している。

歳入面では、本町は財政力指数が 0.2 前後と地方交付税に財源依存している。シミュレーション結果では、令和 22 (2040) 年度の地方交付税は過去平均実績の 78%に相当する 19.6 億円まで減少する予測となっている。

歳出面では、町職員数の減少や扶助費 (社会保障関係費) 等の増加を考慮して推計した結果、令和 22 (2040) 年度における投資的経費への支出可能額は、過去平均実績の 51%に相当する 7.9 億円まで減少する予測となっている。

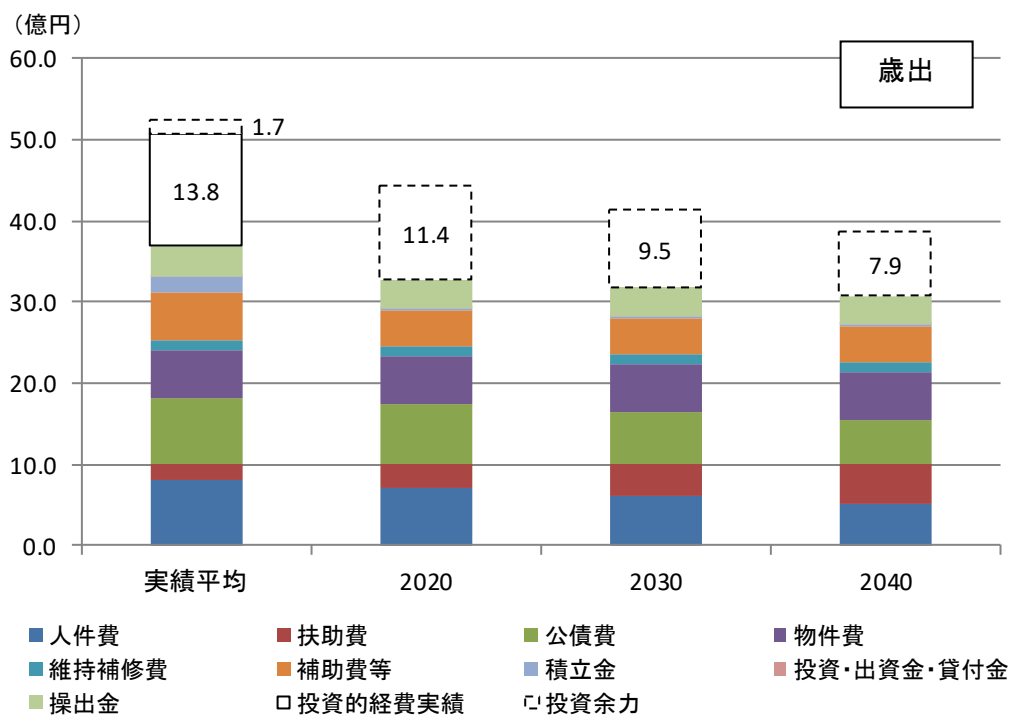
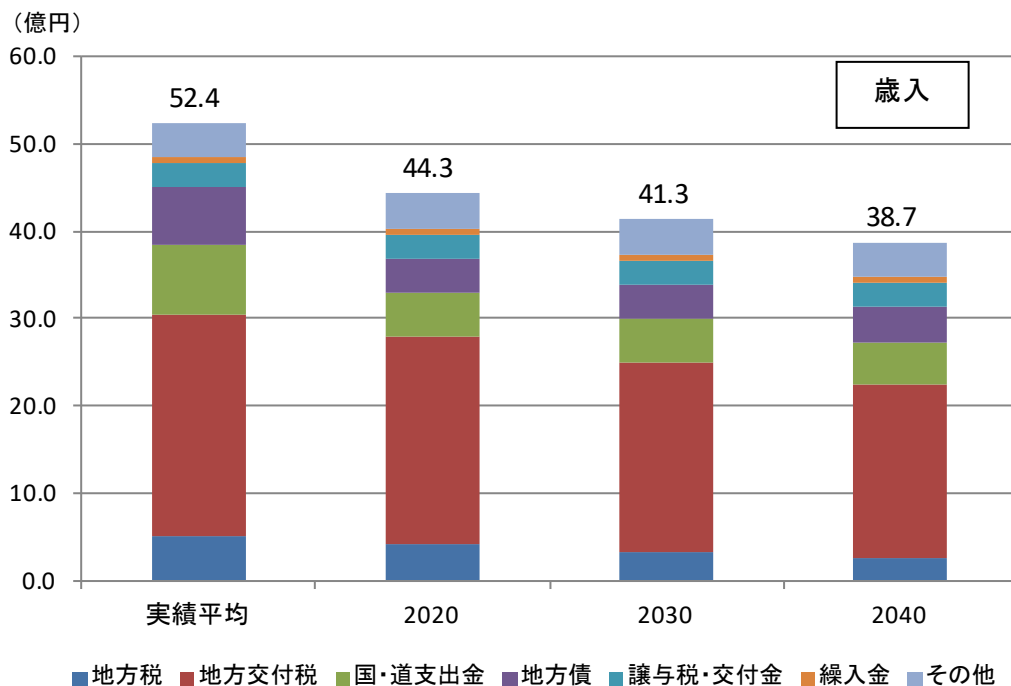


図 2-25 将来の財政シミュレーション結果

(注) 実績平均は、特異年である平成 19、24、25 年度を除いた過去 7 年間平均値

(資料) 小清水町「小清水町公共施設等総合管理計画」

2-3-2 公共施設の維持管理・更新等への影響

(1) 公共施設の保有状況

町の公共施設は 100 施設、273 棟、延床面積約 8 万㎡である。

施設用途別にみると、「公営住宅」が棟数、延床面積ともに最も多く、総延床面積の約 27% を占めている。次いで延床面積の多いものは「学校教育施設」17%、「スポーツ・観光系施設」「市民文化系施設」「その他施設（職員住宅など）」がそれぞれ 10% 程度を占めている。

建築年ごとの延床面積の分布は、1970 年代、1990 年代、2010 年代に多くなっている。

表 2-9 町内公共施設の用途別施設数・棟数・延床面積

	施設数	棟数	延床面積 (㎡)	延床面積 構成比
市民文化系	19	25	9,454	11.7%
社会教育系	2	2	2,011	2.5%
スポーツ・観光系	15	36	10,395	12.9%
産業系	2	3	1,675	2.1%
学校教育系	2	12	13,376	16.6%
子育て支援	2	3	1,168	1.5%
保健福祉系	2	2	3,061	3.8%
行政系	13	14	4,427	5.5%
公営住宅	15	84	21,402	26.6%
公園	4	4	170	0.2%
供給処理	2	4	470	0.6%
その他	13	67	9,647	12.0%
上水道	6	13	724	0.9%
下水道	3	4	2,518	3.1%
総計	100	273	80,498	100.0%

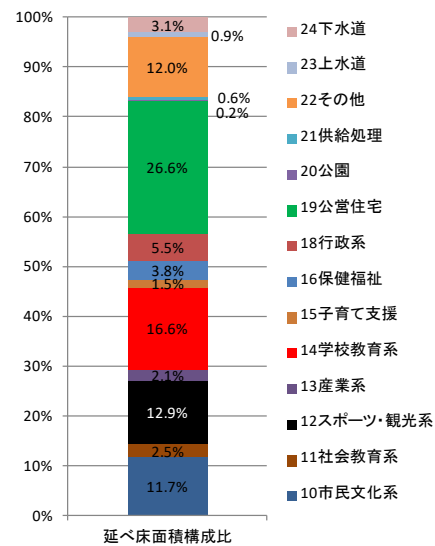


図 2-26 延床面積構成比

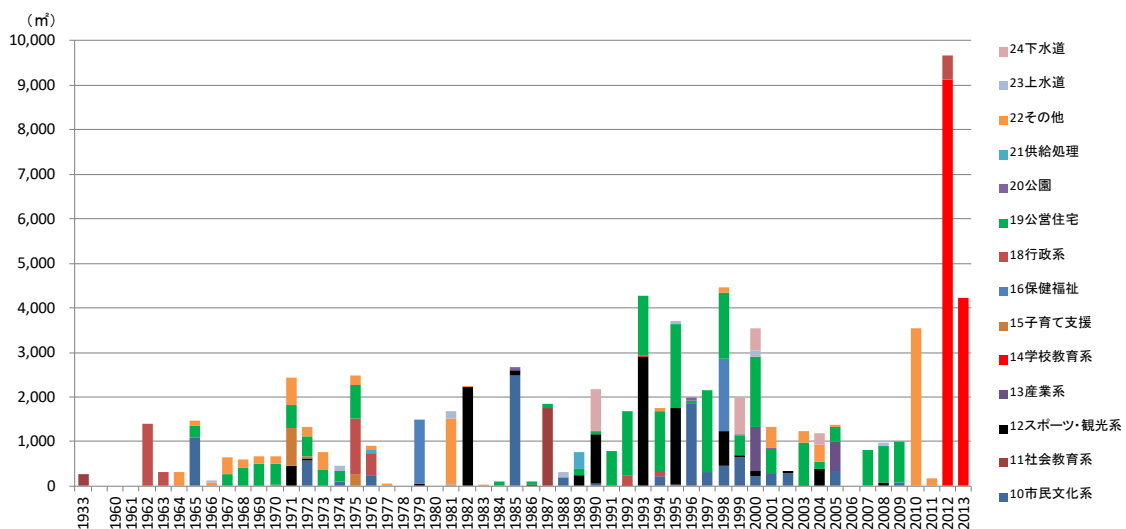


図 2-27 施設の築年別整備状況

(資料) 小清水町「小清水町公共施設等総合管理計画」

(2) 公共施設更新に係る経費と人口減少の影響

町の公共施設について、現在のままの規模・構造で維持し、50年周期で建て替えを実施、中間年で大規模改修を実施しないという条件で今後40年間の改修・更新費用を試算した。改修・更新費用は総額193億円となり、40年間の平均では1年あたり4.8億円となる。町では人口減少と厳しい財政制約のなかで、現状の施設量を維持することは困難であるため、町民サービスを維持しながら令和22(2040)年を目標に公共施設総量を40%削減することを目標設定している。

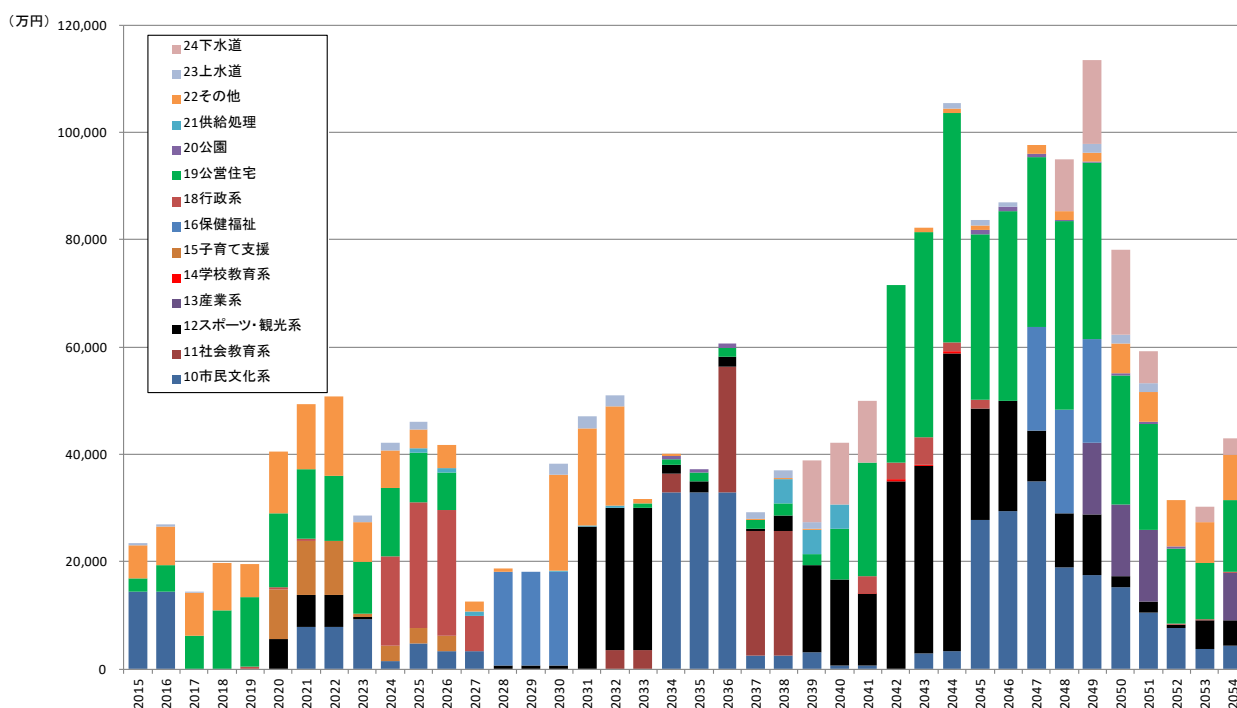


図 2-28 将来更新費の見通し（建て替え周期50年・中間年改修なし）

(注) 算定条件：更新周期50年、大規模改修なし
 平米単価：総務省「施設用途別の大規模改修と建て替えの延べ床あたり単価」を使用
 上水道施設と下水道施設の単価は供給処理施設単価を適用
 事業期間：建て替えは3ヶ年で事業実施すると仮定し、費用は3年で均等割り

(資料) 小清水町「小清水町公共施設等総合管理計画」

2-3-3 生活利便施設等への影響

(1) 小売店の進出・撤退への影響

町内の小売店数は、平成6（1994）年以降減少傾向にある。

取扱商品別にみると、飲食料品は30店前後で推移していたが、平成21（2009）年で減少した。飲食料品など購買頻度が高く消費者が時間をかけずに購入する最寄品を扱う小売店の撤退により町内商業環境は非常に厳しい状況にある。

地区別にみると、各市街地で生活必需品を取り扱うコンビニエンスストア、ガソリンスタンドが撤退しており、コンビニエンスストアは小清水市街地及び浜小清水市街地、ガソリンスタンドは小清水市街地のみの立地となった。

今後、人口減少が続くことにより、市場経済原理に則り企業活動を営んでいる小売業などの民間生活利便施設の撤退が予想される。

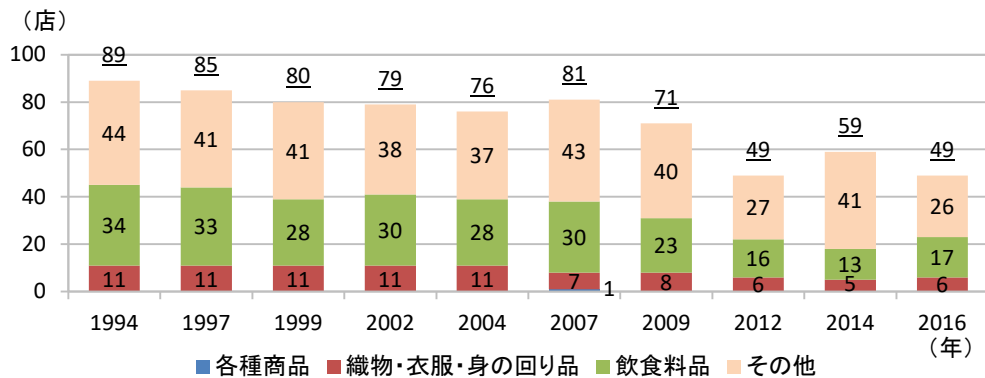


図 2-29 小売店舗数の推移

（資料）経済産業省「商業統計」「経済センサス」

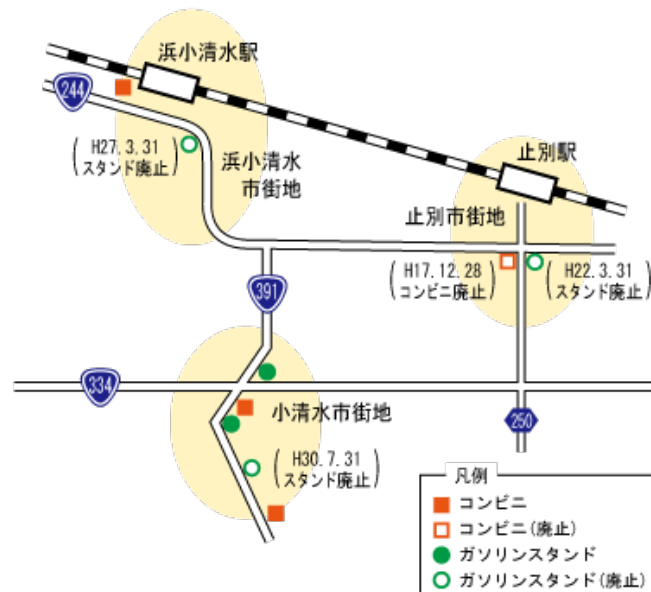


図 2-30 コンビニエンスストア、ガソリンスタンドの状況

（資料）小清水町調べ

(2) 地域公共交通への影響

町には、路線バス（網走バス小清水線）、鉄道（JR 釧網線）が公共交通として運行している。

路線バス乗降者数は深刻な減少傾向にあり、平成 30（2018）年度には網走バス斜里線が廃止となった。また、現在運行中の網走バス小清水線も平成 30（2018）年度の輸送人員は 36,001 人であり 10 年前（平成 21（2009）年度）の約 60%まで減少しており、小清水高校の募集停止及び閉校による高校生の通学者減少が主たる要因となっている。

人口減少に伴う年少人口の減少は、通学者の減少をもたらし、これが公共交通機関の路線経営に影響を及ぼすことが懸念される。

公共交通機関は高齢者にとって日常生活に欠かせない移動手段であり、高齢者の増加によってその重要性がより高まることが予想されるが、居住が散居形態であることから、地域交通確保が課題となるものと考えられる。

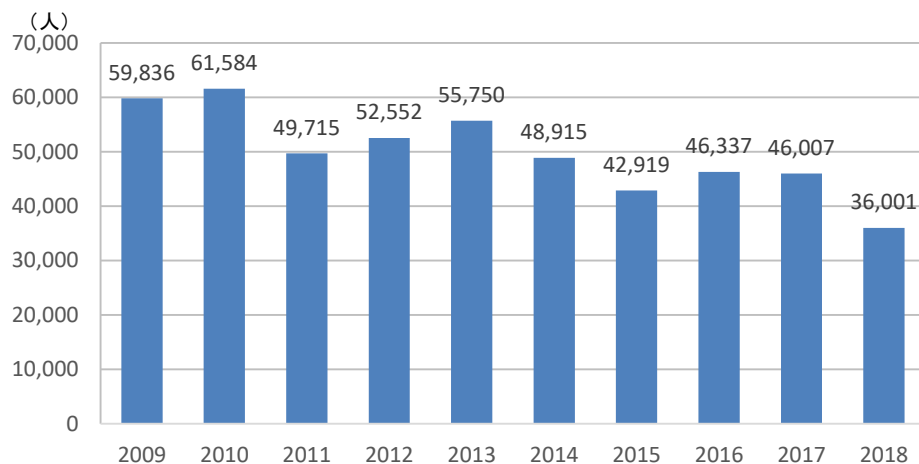


図 2-31 網走バス小清水線の輸送人員の推移

(資料) 網走バス資料

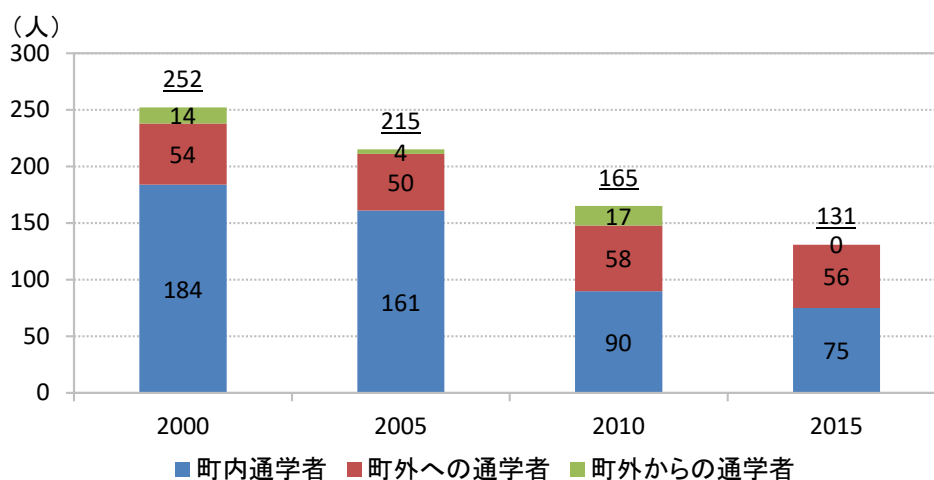


図 2-32 15 歳以上通学者数の推移

(資料) 総務省「国勢調査」

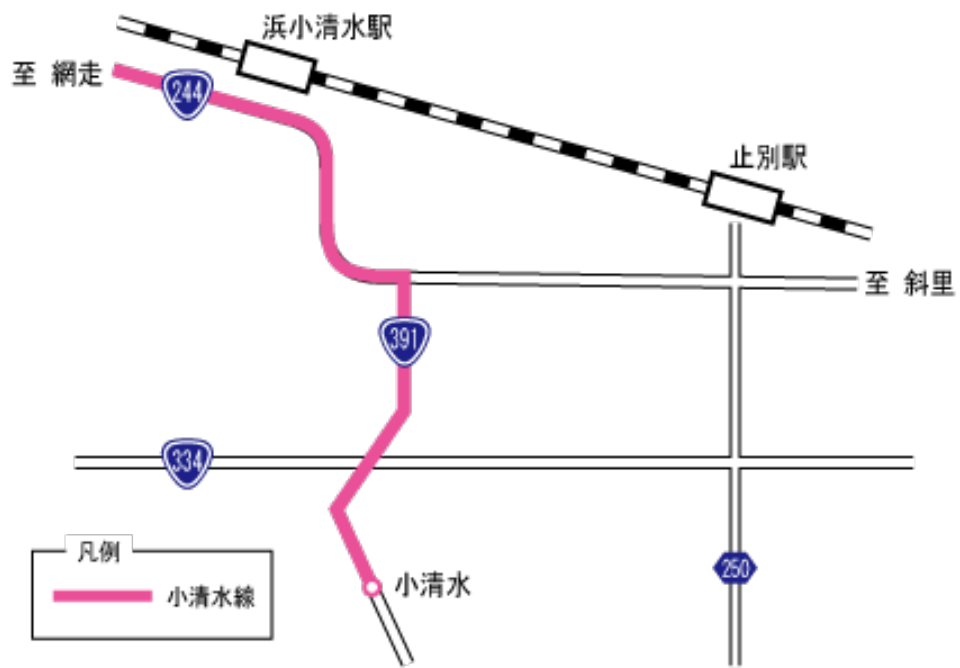


図 2-33 バス路線図

2-3-4 雇用や人材への影響

町が管轄内である網走公共職業安定所管内における有効求人倍率（一般+パートタイム）は、過去10年間、全道より高く推移している。

平成30（2018）年12月～令和元（2019）年11月の網走公共職業安定所管内の新規求人・求職状況をみると、専門的・技術的の職業やサービスの職業で人手不足である一方、事務的の職業や運搬・清掃・包装等の職業が人材過剰である。

現在の求人・求職状況が続くと仮定した場合、生産年齢人口が減少する中、求人過多の職業の人手不足が予測される。

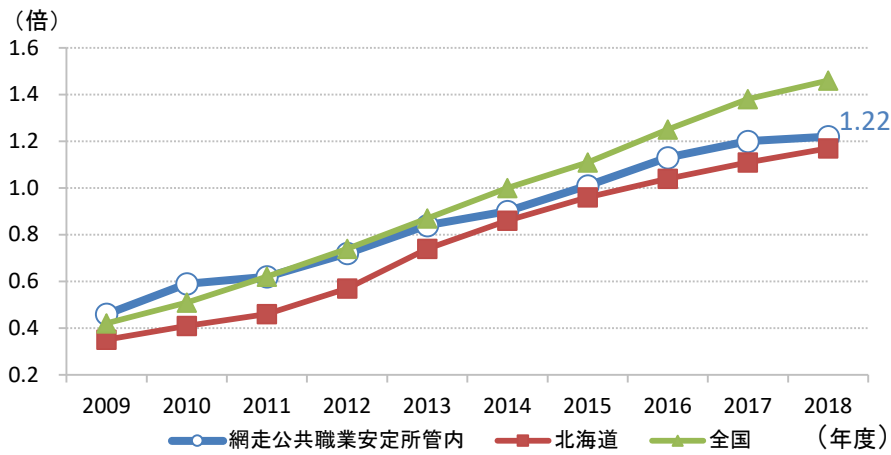


図 2-34 網走公共職業安定所管内の有効求人倍率の推移

(資料) 北海道労働局「安定所別月間有効求人倍率（常用）の推移」

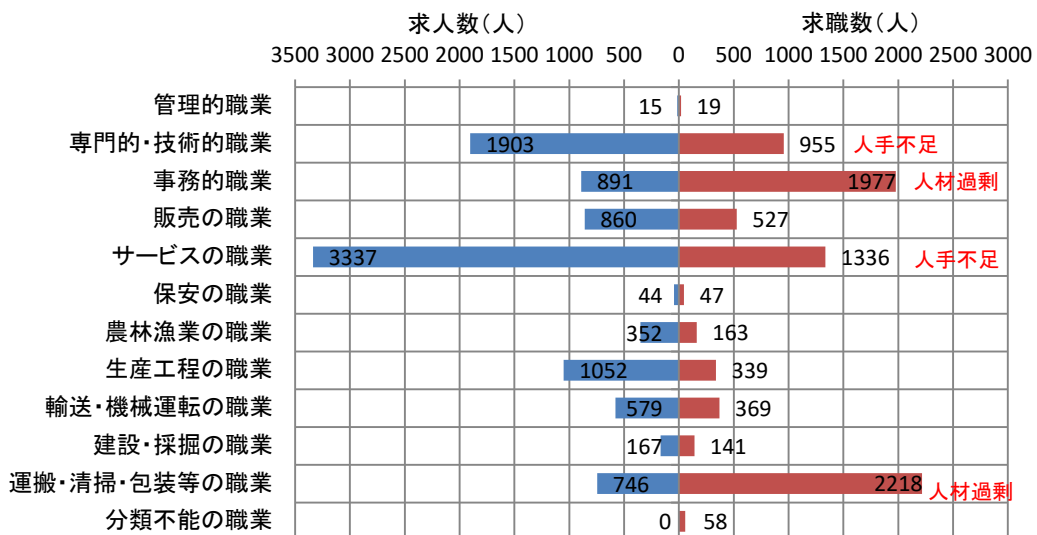


図 2-35 網走公共職業安定所管内の求人・求職状況（平成30年12月～令和元年11月）

(資料) 網走公共職業安定所資料

2-3-5 子ども・子育てへの影響

保育園・幼稚園児童、小中学生数は減少基調にあり、平成 30(2018)年度では各々161人、225人、108人となっている。

近年の出生・死亡・移動等の傾向が継続した場合（現状傾向推移）における5歳階級別人口をもとに1歳毎平均人口を試算した。その結果、令和27(2045)年において、保育園・幼稚園児童53人、小学生115人、中学生55人と試算した。

このまま人口減少が続き1学年8人以下となると、現行基準においては複式学級が生じる可能性がある。

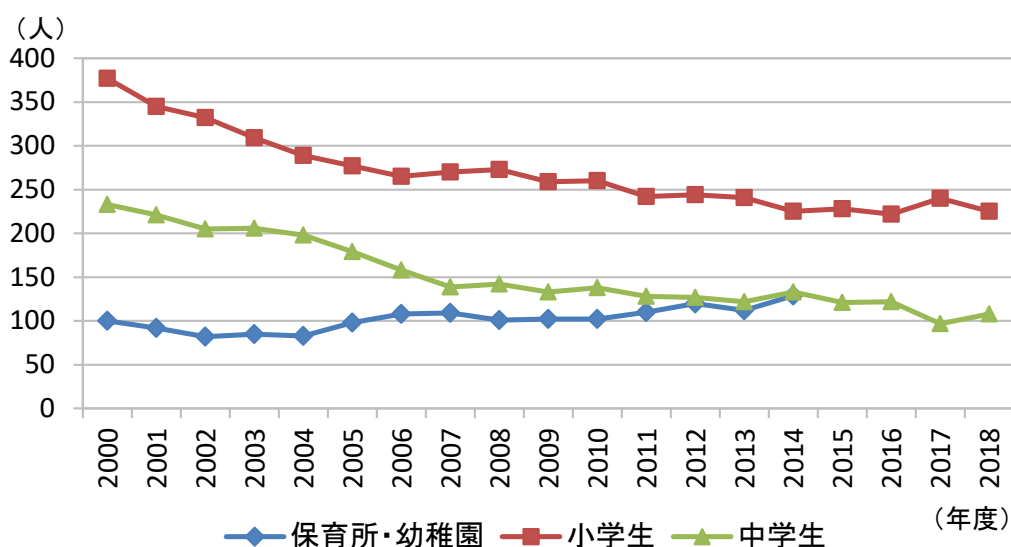


図 2-36 保育園・幼稚園児童、小学生、中学生数の推移

(資料) 文部科学省「学校基本調査」、北海道「認可保育所の入所状況」、小清水町調べ

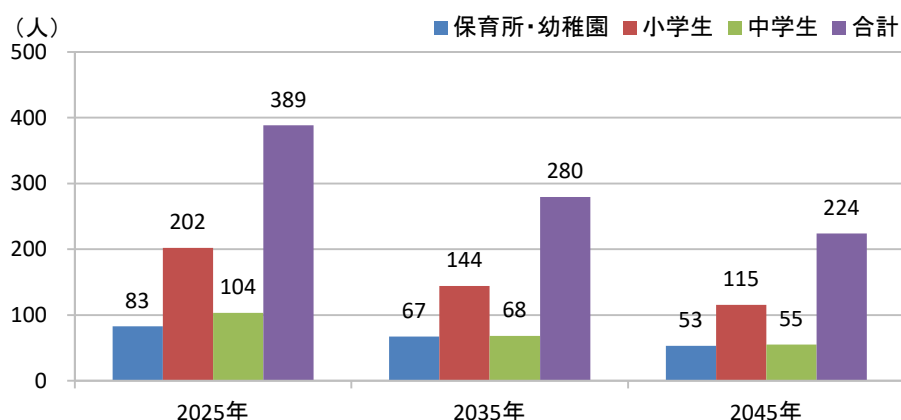


図 2-37 保育園・幼稚園児童、小学生、中学生数の試算

(注) 近年の出生・死亡・移動等の傾向が継続した場合（現状傾向推移）の人口推計による0-4歳、5-9歳、10-14歳、15-19歳の各階級人口を5で除した数値を1歳毎人口と設定、保育園・幼稚園3年、小学校6年、中学校3年を乗じて試算。

保育園・幼稚園児童は、対象年齢を小学校入学前3年、全員が入所・入園すると仮定した場合の試算値

3 まちづくりに関するアンケート調査結果

3-1 調査の概要

3-1-1 調査の種類・概要

総合計画やまち・ひと・しごと創生総合戦略の見直しにあたり、住民のまちづくりに対する考え（生活の満足度、定住意向、結婚・出産等に関する意識、地元就職の希望、町の魅力、防災に関する意識、健康づくり、庁舎建設への関心等）の把握や将来人口の展望に資するためのアンケート調査を実施した。

アンケートは「1. 町民アンケート（18歳以上の町民から年齢・性別バランスを考慮して無作為抽出）」「2. 中学生アンケート（小清水中学校全生徒対象）」の2種類を実施した。

ここでは、将来人口に関連が大きい項目について抜粋して掲載する。

表 3-1 アンケートの概要

種類	1. 町民アンケート (18歳以上)		2. 中学生アンケート
配布対象 〔配布数〕 配布方法	一般町民 〔575票〕 郵送配布	小中学生保護者 学校配布*	小清水中学校生徒 学校配布
回収数	345票		45票
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者属性（*） ・まちづくり／交通／地域住民のつながり ・結婚／出産／子育て（*） ・職業／副兼業／求職の意向（*） ・まちのアピールポイント ・防災意識 ・運動習慣 ・役場庁舎の建設 		<ul style="list-style-type: none"> ・回答者属性（*） ・中学卒業後の進路／希望（*） ・高校卒業後の進路／希望（*） ・地元就職の意向／希望（*） ・まちづくり／役場庁舎の建設

※児童生徒計 333 人を通じて配布。児童生徒の兄弟重複で実質配布数は 200 票程度と見込まれる。

※人口ビジョン掲載項目（*）

3-1-2 調査票

(1) 町民アンケート

1. 回答する方について

問 1-1 あなたの性別・年齢を教えてください。(1つに○)

①性別	1. 男性	2. 女性		
②年齢	1. ~19歳 5. 50~59歳	2. 20~29歳 6. 60~69歳	3. 30~39歳 7. 70歳以上	4. 40~49歳

問 1-2 あなたが一緒に住んでいる家族の構成を教えてください。(1つに○)

①家族構成

1. 夫婦 (子どもはいない)	2. 親子 (2世代)	3. 親・子・孫 (3世代)
4. 単身 (あなた1人)	5. その他 ()	

②65歳以上の家族の有無 (自身は含まない)

1. いる	2. いない
1. いる	2. いない

③18歳以下の家族の有無

1. いる	2. いない
1. いる	2. いない

問 1-3 あなたの通勤・通学先を教えてください。(1つに○、複数ある場合は主たるものを)

1. 町内	2. 町外 (市町村名:)	3. 通勤・通学していない
-------	----------------	---------------

問 1-4 あなたの住宅の形態を教えてください。(1つに○)

1. 持ち家	2. 民間借家 (戸建、アパートなど)	
3. 公営住宅	4. 倉庫・社宅	5. その他 ()

問 1-5 あなたの居住地を教えてください。(1つに○)

1. 北町	2. 南町	3. 止別	4. 浜小清水	5. 美和	6. 北斗
7. 中里	8. 旭	9. 東野	10. 豊野	11. 泉	12. 水上
13. 共和	14. 上徳	15. 神浦	16. 倉家		

問 1-6 小清水町への居住経緯を教えてください。(1つに○)

1. 生まれた時から住んでいる	⇒ () 年前
2. 小清水町出身で戻ってきた	⇒ () 年前
3. 町外から転居してきた	⇒ () 年前

問 1-7 今後とも小清水町に住み続けたいと思えますか。(1つに○、2・3の場合はその理由を記入)

1. 現在住んでいる町内の地区に住み続けたい	
2. 町内の別の地区に住みたい	→ 具体の希望先がある場合は地区名を記入 () 地区
3. 町外に引っ越したい	→ 具体の引っ越し先がある場合は市町村名を記入 () 市・町・村
4. わからない	

[別の地区や町外に引っ越したい理由]

2. 小清水町のまちづくりについて

「まちづくり」について

問 2-1 まちづくりを行ううえで、重要だと思える項目は何ですか。(3つまで○)

1. 身近に緑や水辺があったり、自然を楽しめる環境があること
2. ゆったりできて、閑静な居住環境であること
3. 近くに商店街やスーパーなどがあり、便利に買い物できる環境であること
4. 学校や公園、スポーツ施設などが充実しており、子育てしやすい環境であること
5. 病院や福祉施設等が充実しており、安心して暮らせること
6. バスやJRなどの公共交通機関が豊富で、移動に便利な環境であること
7. 安全な避難場所が整備されているなど、災害時の安全性が確保されていること
8. 犯罪が少なく、治安が良い安全な地域であること
9. まちの産業が活発で、求人が多いなど働く環境が整備されていること
10. まちに特徴があり、町外の人に誇れる文化を持っていること
11. 地域住民の仲が良く、困ったときに助け合えるような関係を築いていること
12. その他 (具体的に:)

問 2-2 小清水町の現状に対して、どの程度満足していますか。(1つに○)

①自然環境	1. 満足	2. やや満足	3. どちらともいえない	4. やや不満	5. 不満
②居住環境	1. 満足	2. やや満足	3. どちらともいえない	4. やや不満	5. 不満
③買い物の利便性	1. 満足	2. やや満足	3. どちらともいえない	4. やや不満	5. 不満
④子育て施設	1. 満足	2. やや満足	3. どちらともいえない	4. やや不満	5. 不満
⑤病院・福祉施設	1. 満足	2. やや満足	3. どちらともいえない	4. やや不満	5. 不満
⑥公共交通	1. 満足	2. やや満足	3. どちらともいえない	4. やや不満	5. 不満
⑦災害時の安全性	1. 満足	2. やや満足	3. どちらともいえない	4. やや不満	5. 不満
⑧治安の良さ	1. 満足	2. やや満足	3. どちらともいえない	4. やや不満	5. 不満
⑨まちの産業、仕事の数	1. 満足	2. やや満足	3. どちらともいえない	4. やや不満	5. 不満
⑩まちの文化	1. 満足	2. やや満足	3. どちらともいえない	4. やや不満	5. 不満
⑪地域住民の絆が	1. 満足	2. やや満足	3. どちらともいえない	4. やや不満	5. 不満

図 3-1 町民アンケート (P2~3 (P1は依頼文、掲載省略))

「交通」について

問 2-3 よく行く場所とその頻度、交通手段を教えてください。

よく行く場所 具体的に記入	利用頻度 ①は毎週 ②週3～4回程度 ③週1～2回程度 ④月2～3回程度 ⑤月1回程度 ⑥年数回程度 (当てはまる番号を記入)	交通手段 ア. 徒歩・自転車・バイク イ. バス ウ. タクシー・ハイヤー エ. 自分で車を運転 オ. 家族による送迎 その他(下欄に交通手段を記入) (当てはまる番号または交通手段を記入)
通勤通学 (例: 病院)	(当てはまる番号を記入)	(当てはまる番号または交通手段を記入)
買い物 (例: エコープ)	(当てはまる番号を記入)	(当てはまる番号または交通手段を記入)
病院 (例: 小瀬が赤十字病院)	(当てはまる番号を記入)	(当てはまる番号または交通手段を記入)
会合・娯楽 (例: 中央公民館)	(当てはまる番号を記入)	(当てはまる番号または交通手段を記入)

問 2-4 あなたはふだん自動車を運転しますか。(1つに○)

1. 運転免許を持っており、よく運転する
2. 運転免許を持っており、たまに運転する
3. 運転免許は持っているが、全く運転しない
4. 運転免許を持っていない

問 2-5 ふだん運転している方に聞きます。今後、運転できなくなったらどうしますか。(3つまで○)

1. 出かける回数を減らす
2. 町内の公共交通を利用し、今まで通り出かける
3. 家族に送迎をお願いして、今まで通り出かける
4. 公共交通が充実しているまちに引っ越す
5. その他(具体的に:)

問 2-6 今後、町内の公共交通がどのように変われば、より安心・便利に暮らせたいと思いますか。(3つまで○)

1. バス路線のルートを変更する(病院やスーパーのすぐ前にバス停を置くなど)
2. バス路線のダイヤを変更する(IRに乗り継ぎやすいダイヤに変更するなど)
3. バス内の設備を変更する(ノンステップバスを導入するなど)
4. バス停やJRの待ち合わせ場所を充実させる(座席付きのバス停の設置など)
5. バスやJRについてわかりやすい情報を発信する(見やすい時刻表の配布など)
6. 家の前と主要施設間を送り迎えしてくれる「デマンドバス」を導入する
7. タクシーを乗合い車にする
8. 町がタクシー代わりバス代を助成する
9. その他(具体的に:)

「地域住民のつながり」について

問 2-7 あなたは隣近所とどのくらい付き合いがありますか。(1つに○)

1. お互いの家を行き来したり、一緒に買い物に行ったりする
2. 口角的に立ち話をする
3. 会話は挨拶をする
4. 挨拶はしないが、顔は知っている
5. 隣近所に誰が住んでいるかわからない

問 2-8 あなたは、自分の所属する自治会の活動(花壇整備事業や総会、新年会など)に1年間でどれくらい参加していますか。(1つに○)

1. 年3回以上
2. 1～2回程度
3. 全く参加していない

問 2-9 あなたの地域で、住民同士の信頼感や助け合い意識を維持・高めるためには、どのような働きかけが必要だと思いますか。(3つまで○)

1. みんながいつでも集えて、話ができる拠点をつくる(集会所やコミュニティカフェなど)
2. 町内会単位などで楽しいイベント(茶話会やお祭りなど)を行い、親睦の機会をつくる
3. 防災訓練の開催や自主防災組織の結成など、防災に関わる課題解決と一緒に取り組む
4. 防犯パトロールなどを行い、防犯に関わる課題解決と一緒に取り組む
5. 積極的な声掛けや情報共有を心掛け、子どもの見守り活動に地域で取り組む
6. 地域の清掃活動や花壇整備など、地域の美化活動と一緒に取り組む
7. 地域の公園や集会所で共同で管理し、連帯感を育む
8. その他(具体的に:)



図 3-2 町民アンケート (P4～5)

3 「結婚・出産・子育て」について

問 3-1 「結婚・出産・子育て」を望む方々が抱える不安のうち、特に問題だと思ふものはなんですか。(2つまで○)

1. 出会いの機会がなく、結婚したいができない	
2. 収入が安定しておらず、結婚したいができない	
3. 仕事や育児、介護で忙しく、自分が理想とする子どもの人数を持ってない	
4. 金銭面で不安があり、自分が理想とする子どもの人数を持ってない	
5. その他 (具体的に:)	
6. 特になし	

問 3-2 本町では、安心して子育てできる環境づくりを目指し、近年下記の施策に重点的に取り組んできました。あなたが今後特に必要だと思う施策を選んでください。(2つまで○)

1. 出会いの機会の創出 (まち主催の婚活パーティーなど)	
2. 妊産婦への支援 (妊産婦の買物、育児、掃除を支援するヘルパー制度、電子母子手帳アプリなど)	
3. 保育サービスの拡充 (利用型にとって利用しやすい保育サービスの校討など)	
4. 子育て世帯への経済的負担の軽減 (給食費の無償化や医療費無償化など)	
5. 子どもの進学支援 (奨学金の返還減免措置の導入や、通塾費の助成など)	
6. その他の施策が必要 (具体的に:)	

問 3-3 下記の施策・事業の満足度を教えてください。(1つに○)

「町の子育て推進全体」の満足度 (医療費無償化、通学費助成など)	1. 満足	2. やや満足	3. どちらともいえない
	4. やや不満	5. 不満	
「給食費無償化」の満足度	1. 満足	2. やや満足	3. どちらともいえない
	4. やや不満	5. 不満	

問 3-4 「高校生までを対象とした医療費の無償化」についてご存じですか。(1つに○)

「高校生までを対象とした医療費の無償化」の認知度	1. 知っているし、利用したことがある
	2. 知っているが、利用したことはない
	3. 知らない

問 3-5 下記の町の出産支援施策の満足度を教えてください。(1つに○)

出産祝い金の支給	1. 満足	2. やや満足	3. どちらともいえない
	4. やや不満	5. 不満	
妊婦健診の助成	1. 満足	2. やや満足	3. どちらともいえない
	4. やや不満	5. 不満	
産婦健診・出生時検診・新生児健診費用	1. 満足	2. やや満足	3. どちらともいえない
	4. やや不満	5. 不満	
妊産婦の家事を支援するヘルパー制度	1. 満足	2. やや満足	3. どちらともいえない
	4. やや不満	5. 不満	
電子母子手帳アプリ	1. 満足	2. やや満足	3. どちらともいえない
	4. やや不満	5. 不満	

4 「しごと」について

問 4-1 あなたのご職業を教えてください。(1つに○、複数ある場合は主たるもの)

1. 農業	2. 林業	3. 漁業	4. 商工自営業
5. 医療・福祉職	6. 会社員	7. パート	8. 団体職員
9. 公務員 (教員も含む)		10. 学生	11. 主婦・主夫
12. 無職		13. その他 ()	

問 4-2 現在、働いている方に伺います。現在の勤務状況について、教えてください。(1つに○)

1. フルタイム勤務	2. 短時間勤務	3. 育児・介護休暇中
4. 休職中	5. その他 (具体的に記入)	

「副業・兼業」について

問 4-3 現在、働いている方に伺います。副業・兼業に関心はありますか。(1つに○)

1. 副業・兼業をしている
2. 副業・兼業したい
3. 勤めている企業・組織が許可するなら、副業・兼業をしたい
4. 副業・兼業はやらさない

問 4-4 副業・兼業に関心がある方に伺います。副業・兼業をしたいと思う理由は何ですか。(1つに○)

1. 収入を増やしたいから
2. 様々な分野における人脈を構築したいから
3. 仕事以外の知識や技術を積極的に取り込むため
4. 転職を考えているから
5. 自分のスキルを活かせる場だから
6. 余っている時間があるから
7. その他 (具体的に記入)

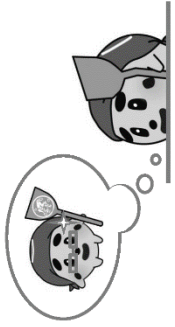


図 3-3 町民アンケート (P6~7)

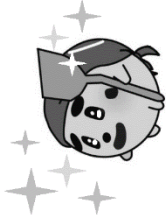
5 「まちのアピールポイント」について

問 5-1 小清水町の魅力として、町外の人に自慢できると思うことは何ですか。(2つまで○)

1. 田園や海、山林など、小清水町らしい景観があること
2. 「原生花園」や「清洲湖」、「リリーパーク」など、身近に自然に触れられる環境があること
3. 農業をはじめとした地域産業が盛んであること
4. おいしい飲食店やじやがいちも等の特産品があること
5. 医療費の一部無償化に取り組むなど、子育てしやすい環境であること
6. 網走市に近く、通勤通学や買い物に不便しないこと
7. 地域住民が仲が良く、困ったときに助け合えること
8. その他 (具体的に:)

問 5-2 本町では、賑わいあるまちづくりを目指し、「観光客」や「移住者」、「小清水町のアアン」を呼びやすための下記の施策に重点的に取り組んできました。
あなたが今後特に必要なと思う施策を選んでください。(2つまで○)

1. まちの観光地の魅力の向上 (観光客や地域住民が集える環境づくりなど)
2. 自然を活かしたイベント開催 (モンペルと連携したアウトドアイベントの開催など)
3. 「食」のブランド化 (オホーツクブランドの売り出し、観光客が食べたくなる「食」づくり)
4. 観光や移住情報の発信 (HPやツイッターを通じて情報発信)
5. 移住希望者向けの居住場所の確保 (お試し住宅の整備や空き家情報の発信など)
6. 町外の大学と連携した、小清水町での環境学習の推進 (長期休暇中に大学生がインターンシップできる協定の締結など)
7. その他の施策が必要 (具体的に:)



「求職」について

問 4-5 現在、働いていない方に伺います。今後の就労についてどのような考えをしていますか。(1つに○)

1. 現在、求職活動を行っている
2. 今は難しいが、3年以内には就職したい
3. 今は難しいが、4~5年以内には就職したい
4. 今後も働く予定はない
5. その他 (具体的に記入)

問 4-6 就職したいと考えている方に伺います。就職先の条件や希望としてあてはまるものを以下から選んでください。(あてはまるものすべてに○)

1. 働きたい職種がある ⇒ (職種:)
2. 希望する賃金が得られること ⇒ (時給: 円/時 以上)
3. 正規雇用であること
4. パート勤務であること
5. 社会保険等に加入できること
6. 希望する勤務時間が取得できること
7. 希望する勤務時間帯で働けること
8. 週5日勤務でなく、勤務時間の融通が利くこと
9. その他 (具体的に記入)

「町の取り組み」について

問 4-7 本町は、町の産業を守るとともに、就労したい方の希望をかなえられるよう取り組んでいます。
あなたが今後特に必要なと思う施策を選んでください。(2つまで○)

1. 町内での就業支援・幹線窓口 (ハローワークのようなもの) の設置
2. 基幹産業 (農業) の担い手育成 (農業ノウハウを伝授する講座の開催、農地あっせんなど)
3. 既存農家のサポート (労働力不足に悩む既存農家へのサポートなど)
4. 農業設備の改善 (ほ場の拡大、設備の導入など)
5. 農業を活用した新たな人の呼び込み (農業体験ツアーなど)
6. 農業と福祉の連携による雇用づくり (障がい者に向けた働きやすい雇用の場づくり)
7. 農業を盛り上げる施設整備の検討 (温泉施設を活用したハウス整備、農業課題に対応する拠点整備など)
8. 安心して働ける場づくり (正規雇用化や女性の採用促進)
9. 起業支援 (空き店舗を活用し新たな取組を進めようとする方の支援)
10. その他の施策が必要 (具体的に:)

図 3-4 町民アンケート (P8~9)

6 「防災」について

問 6-1 お住まいの地域は、災害に対し安全だと思いますか。(1つに○)

- 1. 安全
- 2. ある程度安全
- 3. 多少危険
- 4. 危険
- 5. わからない

問 6-2 お住まいの地域で起きた場合、脅威に感じる災害を選んでください。(2つまで○)

- 1. 地震
- 2. 津波
- 3. 豪雨災害(洪水など)
- 4. 土砂災害
- 5. 高潮、高波
- 6. 噴火(活火山である硫黄山の噴火)
- 7. 風害(台風や竜巻)
- 8. 雪害・融雪災害(大雪や暴風雪、なだれなど)
- 9. 脅威を感じる災害はない
- 10. その他(具体的に:)

問 6-3 大規模災害や大規模停電が発生した場合、最寄りの避難所へどのようにして避難しますか。(1つに○)

- 1. 一人で(自力で)移動する
- 2. 同居の家族と一緒に車または徒歩で移動する
- 3. 近隣の手に手伝ってもらう(車または徒歩で連れて行ってもらう)
- 4. 同居していない家族や親戚に手伝ってもらう(車または徒歩で連れて行ってもらう)
- 5. 移動手段が無いので避難しない
- 6. その他(具体的に:)

問 6-4 自然災害に対しては、被害を拡大させないよう、事前に対策を講じておくことが重要です。今後は町が、自然災害に備え、事前に取り組みたいと思う対策を選んでください。(2つまで○)

- 1. 災害を少しでも緩和する治山治水対策(堤防や砂防ダムなど)
- 2. 災害に強いインフラ整備(道路寸断時に迂回できる道路ネットワーク整備など)
- 3. 個人の住宅や公共施設の耐震化
- 4. 安全な避難場所の確保
- 5. 円滑な救助活動に向けた体制づくり(救助活動に必要な資機材の配置、医療施設の耐震化など)
- 6. 町民への意識啓蒙(わかりやすい危険箇所を確認できるハザードマップの配布など)
- 7. 公共施設における備蓄品の充実(食料品や衣料品、防寒具など)
- 8. 早期に復興を進められる体制づくり(他自治体との連携強化など)
- 9. 高齢者や障がい者など、支援が必要の方も安心に避難できる体制づくり
- 10. まちの産業者へのダメージを少なくするため、早期に仕事を再開できる仕組みづくり
- 11. 自主防災組織の形成
- 12. その他(具体的に:)

問 6-5 災害時などに緊急を要する情報を電子メールにて配信する『こしみず情報メール』に登録していますか。

- 1. 登録している
- 2. 登録していない

問 6-6 『こしみず情報メール』に登録していない方に伺います。登録していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 『こしみず情報メール』を知らなかった
- 2. 電子メールを受信出来る機器(携帯電話・パソコン等)を所有していない
- 3. 登録方法がわからない(難しい)
- 4. 登録しようとしたが、ブロックされた(迷惑メール、受信拒否設定など)
- 5. 一度登録したが解除した
- 6. 迷惑・詐欺メール対策のため、配信サービスは利用しないことにしている
- 7. ふだん電子メールを利用しないため
- 8. その他(具体的に:)

問 6-7 災害時に避難所情報などを得るために、あなたが利用すると思う情報手段は何ですか。以下のア～サから、優先順位をつけて3つ選んでください。

- 1位:() 2位:() 3位:()
- ア. 電子メール(現在の『こしみず情報メール』)
 - イ. 官公庁のホームページ
 - ウ. LINE
 - エ. FacebookやTwitterなどのSNS
 - オ. テレビ・ワンセグ放送
 - カ. ラジオ
 - ク. 電話
 - キ. 防災無線
 - ク. FAX
 - コ. 近隣住民の口コミ情報
 - サ. その他(具体的に:)

問 6-8 ご自身はスマートフォンをお持ちですか。

- 1. 持っている
- 2. 持っていない



図 3-5 町民アンケート (P10~11)

7 健康づくりについて

問 7-1 あなたの運動習慣について教えてください。(1つに○)

1. 週に2回以上行っている
2. 週に1回行っている
3. 月に2・3回行っている
4. 月に1回行っている
5. ほとんど行っていない ⇒ 問 7-4 へ
6. 行っていない ⇒ 問 7-4 へ

問 7-2 問 7-1 で「1～4」とご回答された方にお尋ねします。

運動種目について、あてはまるものを以下から選んでください。(あてはまるものすべてに○)

1. ウォーキング
2. ランニング
3. 登山
4. ストレッチ
5. ラジオ体操
6. 健康体操
7. ヨガ・ピラティス
8. フラダンス
9. 筋力トレーニング
10. 水泳
11. 水中ウォーキング
12. アクアビクス
13. ソフトボール
14. バークゴルフ
15. ゲートボール
16. ゴルフ
17. サッカー
18. 野球
19. バスケットボール
20. 剣道
21. 空手
22. スキー
23. スケート
24. カーリング
25. カヌー・カヤック
26. ラフティング
27. クライミング
28. サイクリング
29. トライアスロン
30. その他 ()

問 7-3 問 7-1 で「1～4」とご回答された方にお尋ねします。

運動場所について、あてはまるものを以下から選んでください。(あてはまるものすべてに○)

1. 自宅
2. 自宅周辺の屋外
3. 小清水小学校
4. 小清水中学校
5. 小清水町民プール(サンプール)
6. 町民ゲートボール場
7. 町民パークゴルフ場
8. テニスコート(多目的運動場)
9. サッカーコート(多目的運動場)
10. 小清水町ふれあいアリーナ
11. 小清水野球場
12. 小清水町武道館
13. 町民多目的運動場
14. 小清水町農業者トレーニングセンター
15. 町民スキー場
16. こしみず21交流館
17. 小清水多目的研修集会施設(愛ホール)
18. 中央公民館
19. 土別公民館
20. 浜小清水公民館
21. 小清水コミュニティプラザ
22. スポーツクラブ
23. モンベルショップ
24. その他 ()

問 7-4 問 7-1 で「5または6」とご回答された方にお尋ねします。

運動を行っていない理由について教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 運動が嫌い
2. やりたくない運動がない
3. 病氣・怪我
4. 家事(育児)が忙しい
5. 仕事忙しい
6. その他 ()

問 7-5 ご自宅や職場の近くにスポーツクラブがあればご利用されますか。

1. 利用したい
2. 利用したくない ⇒ 問 7-11 へ

問 7-6 問 7-5 で「利用したい」とご回答された方にお尋ねします。

ご利用目的を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 健康維持・増進
2. ストレス解消
3. 引き締まった身体(シエイブアップ)
4. たくましい身体(筋力アップ)
5. 運動不足解消
6. 肩こりの改善
7. 膝痛・腰痛予防
8. 現在行っているスポーツのため
9. 医師に進められて
10. デトックスしたい
11. 生活習慣を改善したい
12. その他 ()

問 7-7 問 7-5 で「利用したい」とご回答された方にお尋ねします。

ご興味があるトレーニングやレッスンを選んでください。(あてはまるものすべてに○)

1. 筋力トレーニングマシン
2. 有酸素トレーニング(ウォーキング)マシン
3. ストレッチマシン
4. フリーウェイトトレーニング
5. 体幹・コアングシヨナルトレーニング
6. 低酸素ルームトレーニング
7. エアロビクスレッスン
8. 格闘技系レッスン
9. ヨガ・ピラティスレッスン
10. ホットプログラムレッスン
11. ダンス系レッスン
12. ダンベルバーベル系レッスン
13. ボール系レッスン
14. フラダンスレッスン
15. トランポリン系レッスン
16. VR(バーチャリアリティ)レッスン
17. 明確系トレーニング
18. その他 ()

問 7-8 問 7-5 で「利用したい」とご回答された方にお尋ねします。

ご興味がある付帯施設やサービスを選んでください。(あてはまるものすべてに○)

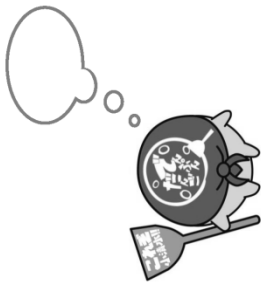
1. ラウンジ(休憩・飲食スペース)
2. カフェ
3. キッズスペース
4. 託児
5. 子供スクール(体操・ダンス・水泳等)
6. 大人スクール(ゴルフ・テニス・水泳等)
7. アウトドアフィットネス
8. トレーナーによる個別指導
9. ボルダリング
10. コインランドリー
11. その他 ()

図 3-6 町民アンケート (P12～13)

8 役場庁舎の建設について

問 8-1 小清水町では役場庁舎の建て替え準備を進めています。人々が集まり、便利に暮らせるためには、どのような機能があれば良いと思いますか。(3つまで○)

1. 放課後や休日に勉強や読書ができる『自習室』
2. エクササイズやヨガトレーニングができる『スポーツジム』
3. おしゃべりや軽食が楽しめる『カフェ』
4. プリンター（有料）やネットが使える『仕事ブース（テレワークスペース）』
5. 気軽に来店や販売ができる『チャレンジショップ』
6. その他（具体的に： _____）



問 7-9 問 7-5 で「利用したい」とご回答された方にお尋ねします。ご利用される時間帯を選んでください。(あてはまるものすべてに○)

1. いつでも
2. 平日午前
3. 平日午後
4. 平日夜（18時以降）
5. 土日祝
6. その他（ _____）

問 7-10 問 7-5 で「利用したい」とご回答された方にお尋ねします。ご興味がある施設やサービスが全て月会費制でご利用いただける場合、ご予算の上限はいくらですか。(1つに○)

1. 4,000円～5,000円
2. 5,000円～6,000円
3. 6,000円～7,000円
4. 7,000円～8,000円
5. 8,000円～9,000円
6. 9,000円～10,000円
7. その他（ _____）

問 7-11 現在、スポーツクラブに通われていますか。

1. はい ⇒ (施設名： _____)
2. いいえ ⇒ 問 7-13 へ

問 7-12 問 7-11 で「はい」とご回答された方にお尋ねします。選ばれた理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 家から近い
2. 職場が近い
3. 料金が適正なため
4. 設備
5. 指導者
6. プログラム
7. 営業時間
8. お風呂・サウナ
9. 家族・友人・知人が通っている
10. その他（ _____）

問 7-13 健康情報の取得方法を選んでください。(あてはまるものすべてに○)

1. テレビ・ラジオ・新聞
2. 雑誌・書籍
3. 知人・家族
4. インターネット・SNS
5. 医療機関・かかりつけ医
6. 職場・学校
7. 市役所・市報（ホームページ含む）
8. 健康保険組合
9. 特になし
10. その他（ _____）

図 3-7 町民アンケート（P14～15（P16は自由回答欄））

(2) 中学生アンケート

問2 「中学卒業後の進路」について

問2-1 中学卒業後の進路は？ (未定でも大まかな考えを記入してください)

1. 高校等へ進学する ()
 2. 就職する ()
 3. その他 ()

進学先・就職先の市町村名 ()

問2-2 <問2-1で高校等への進学を選んだ方へ>
 上記の進学先を選ぶ理由は何ですか。(あてはまるもの全て)

1. 自分の学力に合うから
 2. 学力を伸ばせる学校だから
 3. 学びたい科目があるから
 4. 校風が良いから
 5. やりたい部活動ができるから
 6. 評判が良いから
 7. 就職に有利だから
 8. 学費が安いから
 9. 通学時間が比較的短いから
 10. 自宅から通学できるから
 11. 寮や下宿があるから
 12. 親戚・兄弟の家から通学できるから
 13. 学校周辺の環境が良いから
 14. 兄弟や知人等が通っている(いた)から
 15. その他 ()

問3 「高校卒業後の進路」について (問2で進学を選択した方への説明)

問3-1 高校卒業後の進路は？ (未定でも大まかな考えを記入してください)

1. 大学等へ進学 ()
 2. 就職 ()
 3. その他 ()

進学先・就職先の市町村名 ()

問3-2 <問3-1で大学等への進学を選んだ方へ>
 上記の進学先を選ぶ理由は何ですか。(あてはまるもの全て)

1. 自分の学力に合うから
 2. 学びたい科目があるから
 3. 校風が良いから
 4. やりたい部活動ができるから
 5. 評判が良いから
 6. 就職に有利だから
 7. 学費が安いから
 8. 自宅から通学できるから
 9. 寮や下宿があるから
 10. 親戚・兄弟の家から通学できるから
 11. 学校周辺の環境が良いから
 12. 親戚・兄弟の家から通学できるから
 13. 兄弟や知人等が通っている(いた)から
 14. その他 ()

中学生アンケート
 ~小清水町のまちづくりに関するアンケート調査~

・小清水町のまちづくりの計画を作り画するため、町民の皆様にはアンケート調査を実施しています。
 ・若い世代の意見を取り入れるため、併せて「中学生アンケート」を実施します。
 ・調査は無記名で、回答結果は全て統計的に処理します。
 ・保護者のアンケート票と一緒に提出してください。

令和元年8月 小清水町役場 企画財政課

◆ 回答は、各質問文にそって [] 内のあてはまる番号を○で囲むか、() 内に語句、数字等を記入して下さい。
 ◆ 番号を選ぶ設問では、(1つ選択)(あてはまるもの全て)、など、選ぶ数を指定しています。

問1 あなた自身のことについてお尋ねします。

問1-1 あなたの性別および学年は？
 (各1つ選択) 1. 中学1年 2. 中学2年 3. 中学3年 1. 男 2. 女

問1-2 中学校で部活動をしていますか？
 (各1つ選択) 1. 運動部 2. 文化部 3. 部活動はしていない

問1-3 お住まいの地域 (1つ選択)
 1. 元町 2. 南町 3. 止別 4. 浜小清水
 5. 美和 6. 北斗 7. 中里 8. 旭
 9. 東野 10. 薮野 11. 泉 12. 水上
 13. 共和 14. 上徳 15. 神浦 16. 倉米

問1-4 家業(保護者の職業) (1つ選択)
 1. 農業 2. 林業 3. 漁業
 4. 商工自営業 5. 医療・福祉職 6. 会社員
 7. ハート 8. 団体職員 9. 公務員(教員も含む)
 10. その他 ()

問1-5 家族構成は？
 ご自身を含めて () 人家族

問1-6 同居している家族の縁柄を選んで下さい。(あてはまるもの全て)
 1. 親 2. 祖父母
 3. 兄弟姉妹(小学生以下) 4. 兄弟姉妹(中学生以上)
 5. 無し(独り暮らし・寮) 6. その他 ()

問1-7 いつから小清水町に住んでいますか？ (1つ選択)
 1. 生まれたときからずっと小清水町に住んでいる。
 2. 小清水町出身で戻ってきた。 → () 年前に。
 3. 町外から転居してきた。 → () 年前に。

図 3-8 中学生アンケート (P1~2)

問4 「就職」について

問4-1 将来どんな職業に就きたいと思っていますか。最も就きたい職業を一つだけ答えてください。

具体的な職業名を記入 ()

問4-2 就職後も小清水町に住んでいたいと思いますか。(1つ選択)

- 1. 小清水町に住んでいたい
- 2. 小清水町に住んでいたいけれど、問4-1の職業では難しい
- 3. 町外に住んで働きたい

その理由 (小清水町に住んでいたい理由・町外に住みたい理由)

[]

問4-3 仕事や就職に対するあなたの考え方に最も近いものはどれですか。(1つ選択)

- 1. 収入さえあればよい
- 2. 楽しく働きたい
- 3. 自分の夢のために働きたい
- 4. 個人の生活と仕事を両立させたい
- 5. プライドのものを仕事をした
- 6. 人のためになる仕事をした
- 7. 出世したい
- 8. 社会に貢献したい

問5 「小清水町のまちづくり」について

問5-1 小清水町のまちづくりで重要だと思うことは何ですか？(3つまで選択)

- 1. 身近に緑や水辺があって、自然を楽しめる環境があること
- 2. ゆったりできて、閑静な居住環境であること
- 3. 近くに商店街やスーパーなどがあり、便利に買い物できる環境であること
- 4. 学校や公園、スポーツ施設などが充実しており、子育てしやすい環境であること
- 5. 病院や福祉施設等が充実していて、安心して暮らせること
- 6. バスやJRなどの公共交通機関が整っていて、移動に便利な環境であること
- 7. 安全な避難場所が整備されているなど、災害時の安全性が確保されていること
- 8. 犯罪が少なく、治安が良い安全な地域であること
- 9. まちの産業が活発で、求人が多いなど働く環境が整備されていること
- 10. まちの特徴があり、町外の人に誇れる文化を持っていること
- 11. 地域住民の仲が良く、困ったときに助け合えるような関係を築いていること
- 12. その他 (具体的に：)

問5-2 小清水町では町役場の建て替え準備を進めています。人々が集まり、便利に暮らせるためには、どのような機能があれば良いと思いますか？(3つまで選択)

- 1. 放課後や休日に勉強や読書ができる『自習室』
- 2. エクササイズや筋力トレーニングができる『スポーツジム』
- 3. おしゃべりや軽食が楽しめる『カフェ』
- 4. プリンター (有料) やネットが使える『仕事ブース (テレワークスペース)』
- 5. 気軽に出店や販売ができる『チャレンジショップ』
- 6. その他 (具体的に：)

問5-3 小清水町について日頃感じていることや、これからのまちづくりに向けての意見や提案などあれば、自由にお書き下さい。(自由回答)

[]

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

図 3-9 中学生アンケート (P3~4)

3-2 町民アンケート結果

3-2-1 回答者属性

(1) 性別・年齢

表 3-2 性別・年齢

	回答数	構成比
男	112	33.6%
女	221	66.4%
合計	333	100.0%

無回答を除く

	回答数	構成比
～19歳	6	1.7%
20～29歳	23	6.7%
30～39歳	55	16.0%
40～49歳	53	15.5%
50～59歳	58	16.9%
60～69歳	94	27.4%
70歳以上	54	15.7%
合計	343	100.0%

(2) 家族構成

表 3-3 家族構成

	回答数	構成比
夫婦（子どもはいない）	92	27.2%
親子（2世代）	141	41.7%
親・子・孫（3世代）	59	17.5%
単身（回答者1人）	32	9.5%
その他	14	4.1%
合計	338	100.0%

無回答を除く

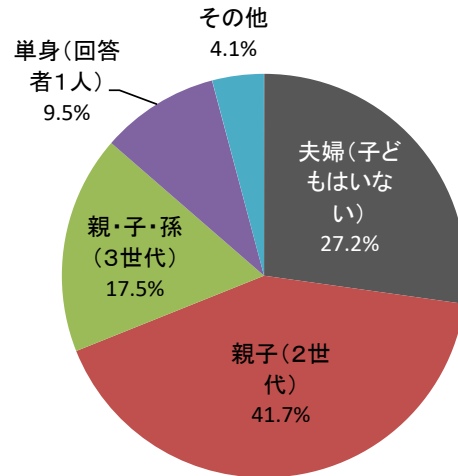


図 3-10 家族構成

表 3-4 65歳以上の家族の有無

	回答数	構成比
いる	155	48.0%
いない	168	52.0%
合計	323	100.0%

無回答を除く

表 3-5 18歳以下の家族の有無

	回答数	構成比
いる	136	45.3%
いない	164	54.7%
合計	300	100.0%

無回答を除く

(3) 通勤先・通学先

通勤通学先は小清水町内が60%を占めた。町外への通勤・通学については、網走市や斜里町、清里町との回答があった。

表 3-6 通勤先・通学先

	回答数	構成比		回答数	構成比	
町内	190	59.6%	＜町外内訳＞	網走市	11	3.4%
町外	21	6.6%		斜里町	4	1.3%
通勤・通学していない	108	33.9%		北見市	1	0.3%
合計	319	100.0%		清里町	1	0.3%
				無回答	4	1.3%
				合計	21	6.6%

無回答を除く

構成比は、町内・町外の設定無効回答を除いた有効回答数に対する構成比

(4) 住宅

表 3-7 住宅

	回答数	構成比
持ち家	272	78.8%
民間借家（戸建、アパートなど）	13	3.8%
公営住宅	35	10.1%
官舎・社宅	21	6.1%
その他	4	1.2%
合計	345	100.0%

無回答を除く

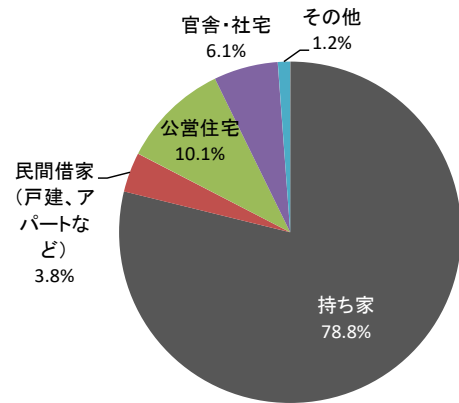


図 3-11 住宅

(5) 居住地区

表 3-8 居住地区

	回答数	構成比
元町	89	26.2%
南町	116	34.1%
止別	23	6.8%
浜小清水	17	5.0%
美和	15	4.4%
北斗	9	2.6%
中里	8	2.4%
旭	12	3.5%
東野	9	2.6%
萱野	6	1.8%
泉	6	1.8%
水上	13	3.8%
共和	8	2.4%
上徳	1	0.3%
神浦	5	1.5%
倉栄	3	0.9%
合計	340	100.0%

無回答を除く

(6) 小清水町への居住経緯

小清水町への居住経緯は、「生まれた時から住んでいる」が最も多く 44%を占めた。次いで「町外から転居してきた」が 41%、「小清水町出身で戻ってきた」は 14%であった。

表 3-9 居住経緯

	回答数	構成比
生まれた時から住んでいる	152	44.4%
小清水町出身で戻ってきた	49	14.3%
町外から転居してきた	141	41.2%
合計	342	100.0%

無回答を除く

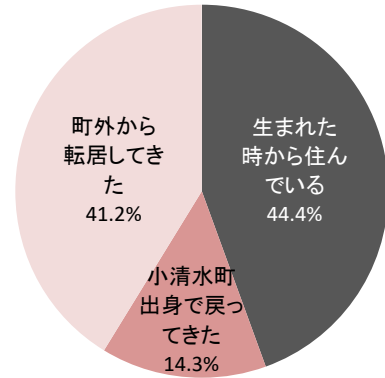


図 3-12 居住経緯

(7) 居住意向

「今後とも小清水町に住み続けたいと思いますか」との設問に対し、「現在住んでいる町内の地区に住み続けたい」が最も多く、60%を占めた。

表 3-10 居住意向

	回答数	構成比
現在住んでいる町内の地区に住み続けたい	200	59.5%
町内の別の地区に住みたい	11	3.3%
町外に引っ越したい	41	12.2%
わからない	84	25.0%
合計	336	100.0%

無回答を除く

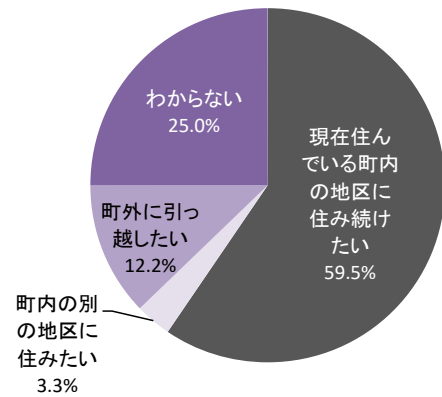


図 3-13 居住意向

3-2-2 結婚・出産・子育て

(1) 「結婚・出産・子育て」に対する問題点

「結婚・出産・子育て」を望む方々が抱える不安のうち、特に問題だと思うものは何か項目を2つまで選択いただいたところ、「出会いの機会がなく、結婚したいができない(50%)」が最も多く、次いで「金銭面で不安があり、自分が理想とする子どもの人数を持ってない(36%)」が多かった。

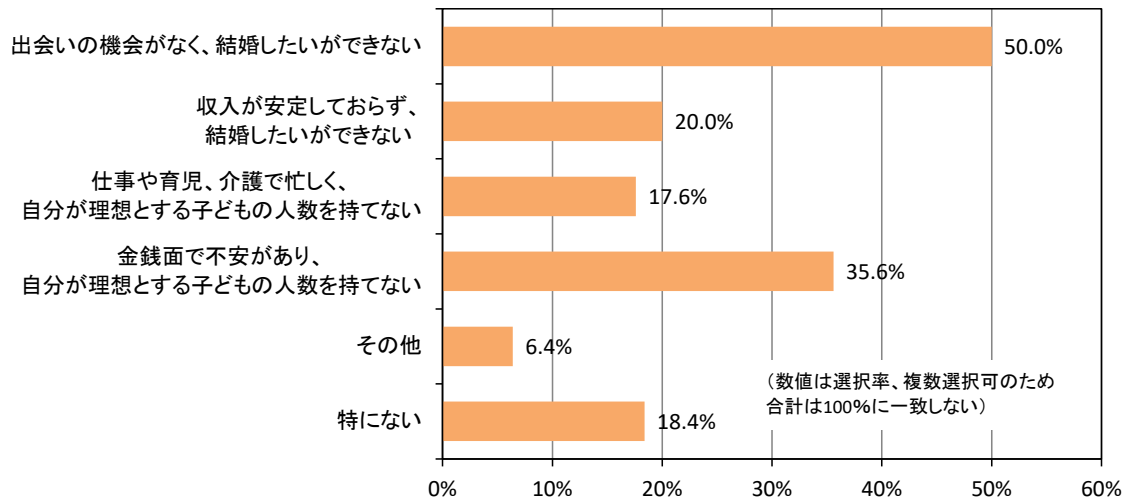


図 3-14 「結婚・出産・子育て」に対する問題点 (N=250)

(2) 安心して子育てできる環境づくりに関して今後も必要だと思う施策

安心して子育てできる環境づくりに関して、今後も必要だと思う施策を2つまで選択いただいたところ、「子育て世帯への経済的負担の軽減(給食費の無償化や医療費無償化など)(50%)」が最も多く、次いで「子どもの進学支援(奨学金の返還減免措置の導入や、通塾費の助成など)(48%)」が多かった。

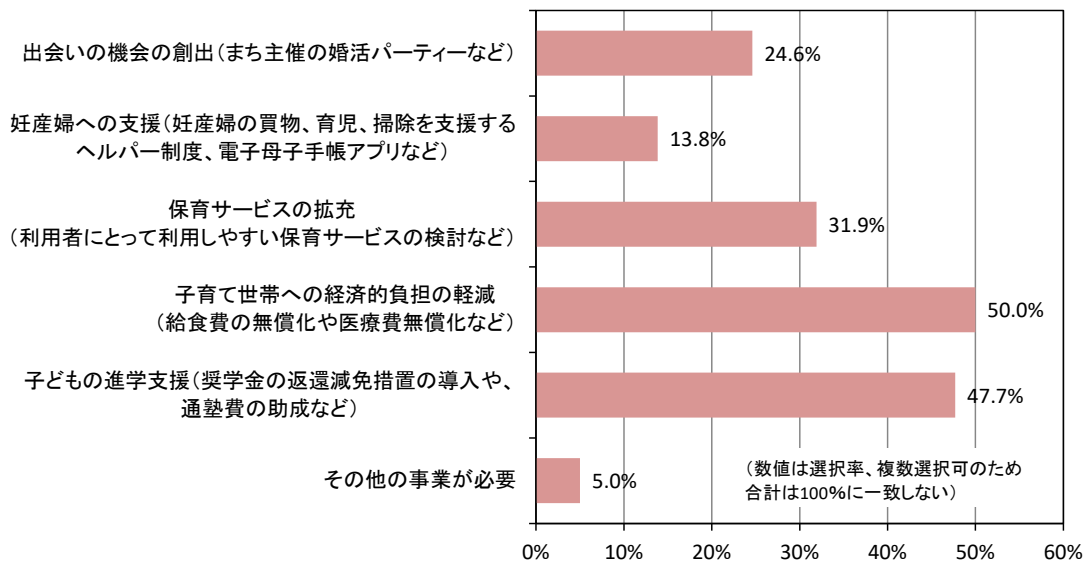


図 3-15 安心して子育てできる環境づくりに関して今後も必要だと思う施策 (N=260)

(3) 施策・事業への満足度

小清水町の子育てに関する施策や事業に対し、満足度を5段階で評価していただいたところ、「満足」「やや満足」を合わせ、それぞれ6割以上の満足度を得られている。

表 3-11 施策・事業への満足度

	満足度				
	満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満
「町の子育て施策全体」の満足度 (医療費無償化、通学費助成など)	31.6%	32.3%	29.7%	3.8%	2.7%
「給食費無償化」の満足度	53.0%	17.0%	25.3%	1.2%	3.6%

無回答を除く

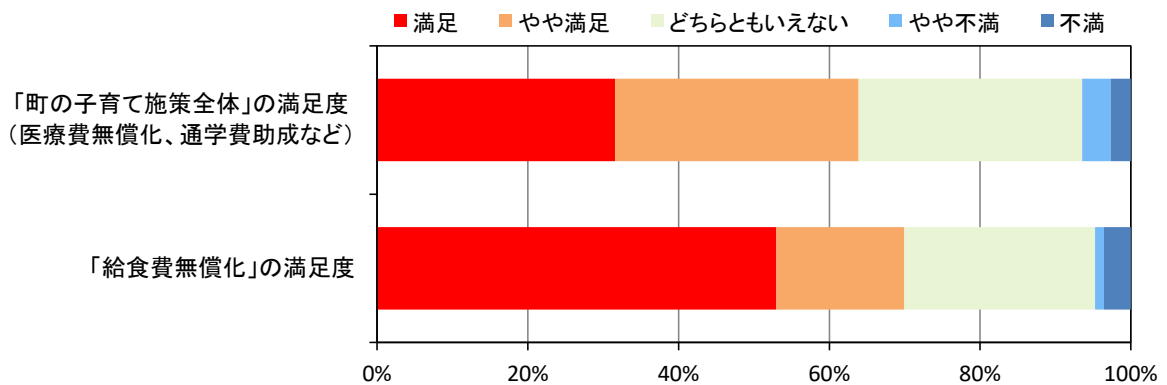


図 3-16 施策・事業への満足度

(4) 「高校生までを対象とした医療費の無償化」の認知度

「高校生までを対象とした医療費の無償化」について、「知っているし、利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」を合わせ「知っている」とする人は58%に上った。しかしながら「利用したことがある」割合は30%に留まっている。

表 3-12 「高校生までを対象とした
医療費の無償化」の認知度

	回答数	構成比
知っているし、利用したことがある	84	30.0%
知っているが、利用したことはない	78	27.9%
知らない	118	42.1%
合計	280	100.0%

無回答を除く

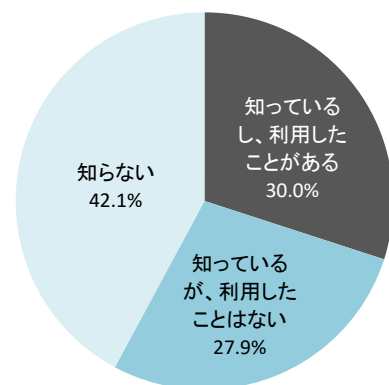


図 3-17 「高校生までを対象とした
医療費の無償化」の認知度

(5) 出産支援施策の満足度

小清水町の出産支援施策に対し、満足度を5段階で評価していただいたところ、「出産祝い金の支給」「妊婦健診の助成」「産婦検診・出生時検診・新生児聴力検査」では「満足」「やや満足」を合わせ、それぞれ6割前後の満足度を得られている。

表 3-13 出産支援施策の満足度

	満足度				
	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満
出産祝い金の支給	32.9%	26.3%	35.4%	2.1%	3.3%
妊婦健診の助成	39.0%	26.1%	32.8%	1.2%	0.8%
産婦検診・出生時検診・新生児聴力検査	38.1%	27.2%	33.1%	0.8%	0.8%
妊産婦の家事を支援するヘルパー制度	14.0%	18.2%	63.1%	1.7%	3.0%
電子母子手帳アプリ	14.5%	17.0%	66.8%	0.9%	0.9%

無回答を除く

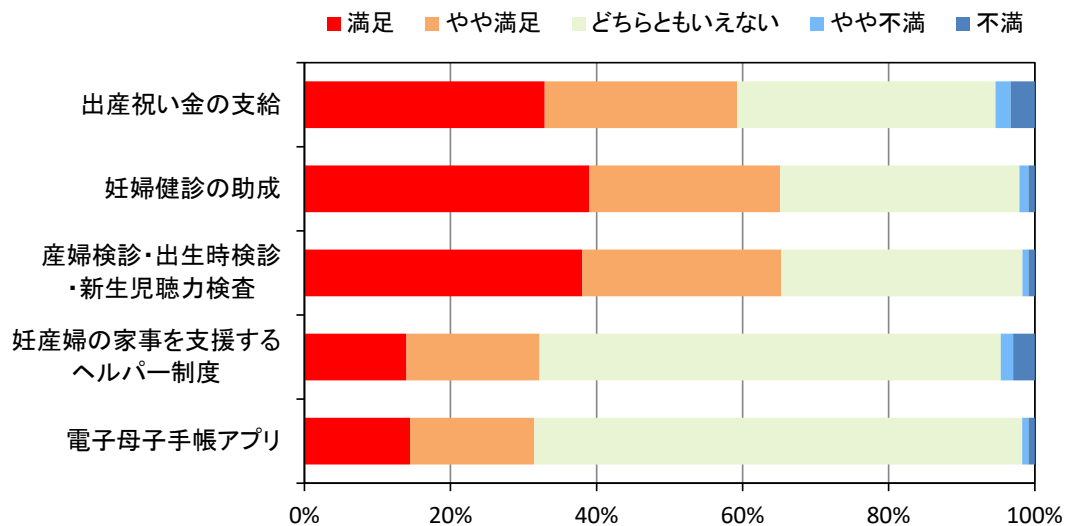


図 3-18 出産支援施策の満足度

3-2-3 「しごと」について

(1) 職業

表 3-14 回答者の職業

	回答数	構成比
農業	95	28.8%
林業	1	0.3%
漁業	1	0.3%
商工自営業	11	3.3%
医療・福祉職	23	7.0%
会社員	26	7.9%
パート	40	12.1%
団体職員	11	3.3%
公務員（教員も含む）	33	10.0%
学生	5	1.5%
主婦・主夫	32	9.7%
無職	45	13.6%
その他	7	2.1%
合計	330	100.0%

無回答を除く

(2) 現在の勤務状況

現在働いている方の勤務状況については、「フルタイム勤務」が最も多く76%を占めた。

表 3-15 現在の勤務状況

	回答数	構成比
フルタイム勤務	180	76.3%
短時間勤務	33	14.0%
育児・介護休暇中	5	2.1%
休職中	4	1.7%
その他	14	5.9%
合計	236	100.0%

無回答を除く

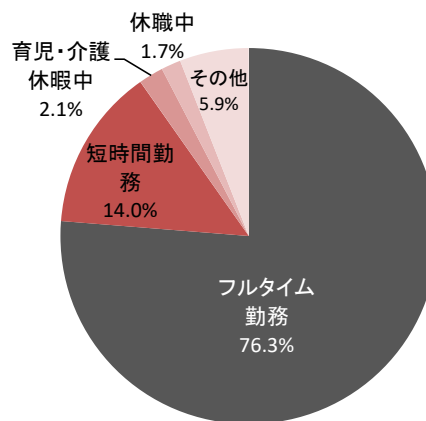


図 3-19 現在の勤務状況

(3) 副業・兼業への関心

副業・兼業への関心として最も多かったのは「副業・兼業はやらない」であり、およそ半数の53%を占めた。

表 3-16 副業・兼業への関心

	回答数	構成比
副業・兼業をしている	25	10.7%
副業・兼業したい	33	14.2%
勤めている企業・組織が許可するなら、副業・兼業をしたい	52	22.3%
副業・兼業はやらない	123	52.8%
合計	233	100.0%

無回答を除く

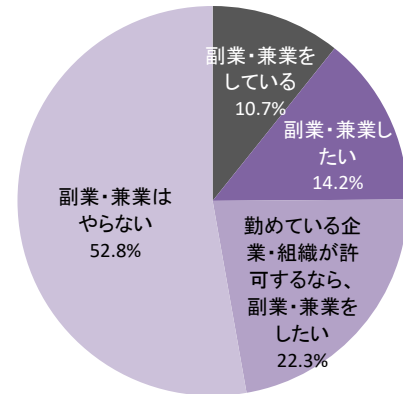


図 3-20 副業・兼業への関心

(4) 副業・兼業をしたい理由

副業・兼業に関心のある方の、副業・兼業をしたい理由として最も多かったのは「収入を増やしたいから」であり54%を占めた。次いで「仕事以外の知識や技術を積極的に取り込むため」が16%であった。

表 3-17 副業・兼業をしたい理由

	回答数	構成比
収入を増やしたいから	65	54.2%
様々な分野における人脈を構築したいから	4	3.3%
仕事以外の知識や技術を積極的に取り込むため	19	15.8%
転職を考えているから	5	4.2%
自分のスキルを活かせる場だから	11	9.2%
余っている時間があるから	13	10.8%
その他	3	2.5%
合計	120	100.0%

無回答を除く

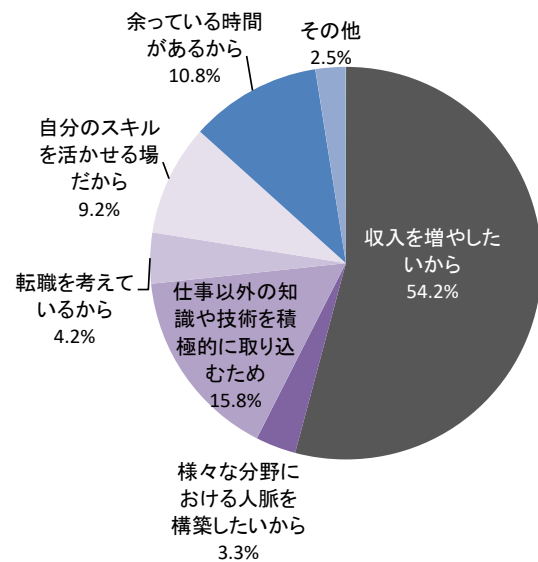


図 3-21 副業・兼業をしたい理由

(5) 求職について

現在働いていない方の今後の就労についての考えとして、「今後も働く予定はない」が69%と最も多かった。

表 3-18 求職について

	回答数	構成比
現在、求職活動を行っている	5	6.8%
今は難しいが、3年以内には就職したい	8	11.0%
今は難しいが、4～5年以内には就職したい	0	0.0%
今後も働く予定はない	50	68.5%
その他	10	13.7%
合計	73	100.0%

無回答を除く

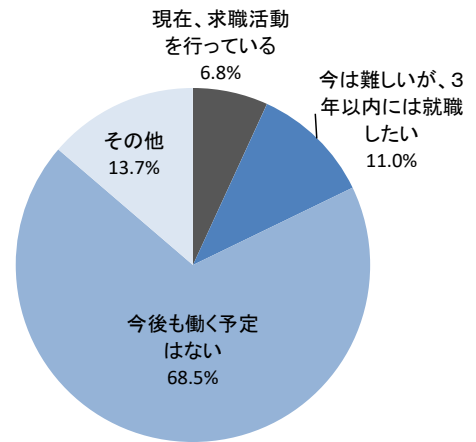


図 3-22 求職について

(6) 就職先の条件や希望

就職したいと考えている方に、就職先の条件や希望として、あてはまる項目すべてを選択いただいたところ、「希望に合った休暇が取得できること、急な休みに対応できる職場であること」「希望する勤務時間帯で働けること」が59%と最も多かった。

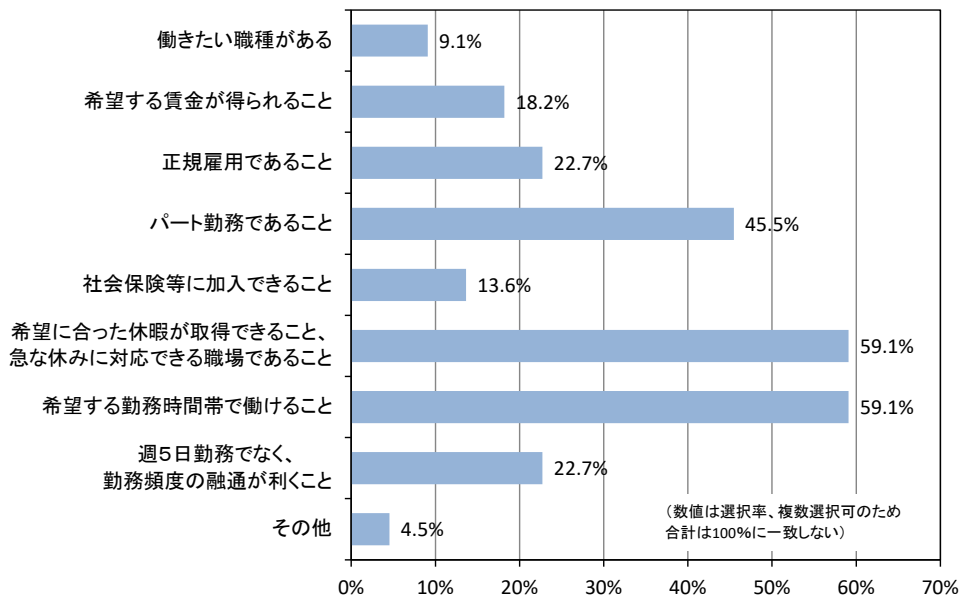


図 3-23 就職先の条件や希望 (N=22)

(7) 就労に関して必要だと思う施策

就労したい方の希望を叶えられるよう今後も特に必要だと思う施策を2つまで選択いただいたところ、「安心して働ける場づくり（正規雇用化や女性の採用促進）（40%）」が最も多かった。

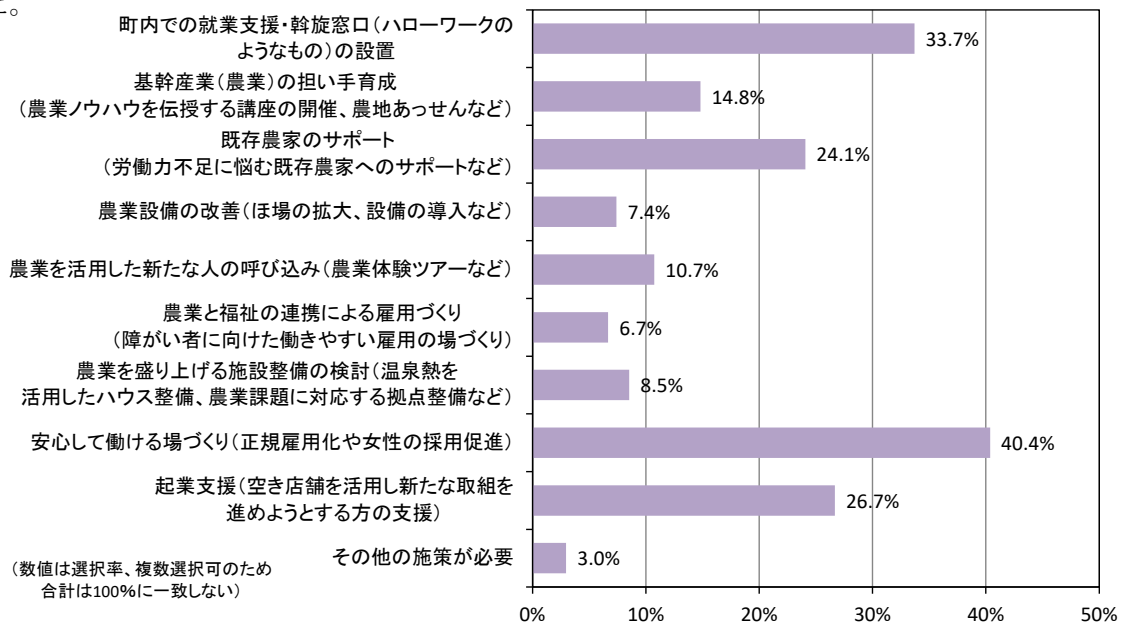


図 3-24 就労に関して必要だと思う施策（N=270）

3-3 中学生アンケート結果

3-3-1 回答者属性

(1) 性別・学年

表 3-19 性別

	回答数	構成比
男	15	35%
女	28	65%
合計	43	100%

表 3-20 学年

	回答数	構成比
1年	5	11%
2年	27	61%
3年	12	27%
合計	44	100%

(2) 部活

表 3-21 部活動

	回答数	構成比
運動部	22	51%
文化部	15	35%
無所属	6	14%
合計	43	100%

(3) 居住地区

表 3-22 居住地区

	回答数	構成比
元町	12	27%
南町	10	23%
止別	2	5%
浜小清水	4	9%
美和	4	9%
北斗	3	7%
中里	2	5%
旭	2	5%
東野	1	2%
萱野	0	0%
泉	1	2%
水上	0	0%
共和	0	0%
上徳	1	2%
神浦	0	0%
倉栄	2	5%
合計	44	100%

無回答を除く

(4) 家業（保護者の職業）

表 3-23 家業（保護者の職業）

	回答数	構成比
農業	16	40%
林業	0	0%
漁業	0	0%
商工自営業	1	3%
医療・福祉職	2	5%
会社員	12	30%
パート	2	5%
団体職員	1	3%
公務員（教員）	5	13%
その他	1	3%
合計	40	100%

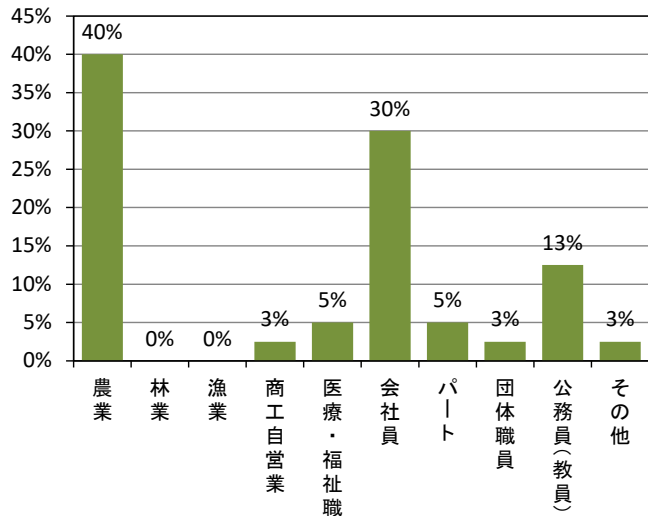


図 3-25 家業（保護者の職業）

(5) 家族人数

表 3-24 家族人数

	回答数	構成比
1人家族	0	0%
2人家族	1	2%
3人家族	6	14%
4人家族	8	19%
5人家族	18	42%
6人家族	2	5%
7人家族	7	16%
8人家族	0	0%
9人家族	1	2%
合計	43	100%

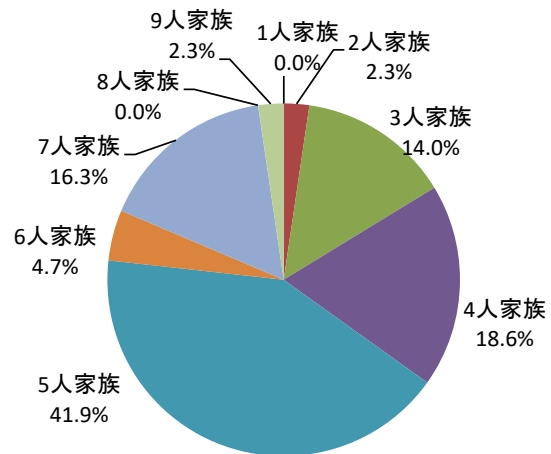


図 3-26 家族人数

(6) 家族構成（同居している家族の続柄（複数回答可））

表 3-25 同居している家族の続柄（複数回答可）

	選択数	選択率
親	43	98%
祖父母	17	39%
兄弟姉妹（小学生以下）	22	50%
兄弟姉妹（中学生以上）	16	36%
無し（独り暮らし）	0	0%
その他	0	0%

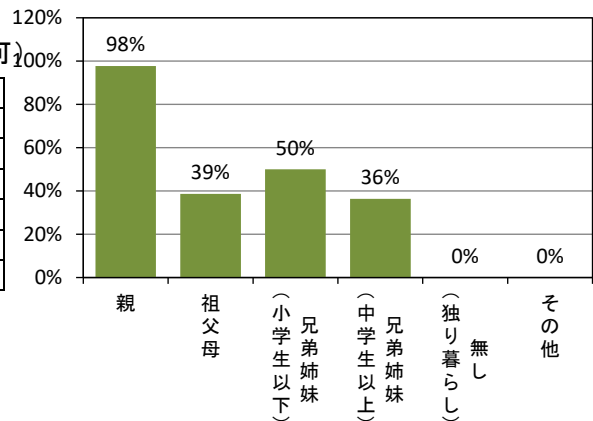


図 3-27 同居している家族の続柄

(7) 町内での居住期間

表 3-26 町内での居住期間

	回答数	構成比
生まれた時から	32	76%
町出身で戻ってきた	0	0%
町外から転居してきた	10	24%
合計	42	100%

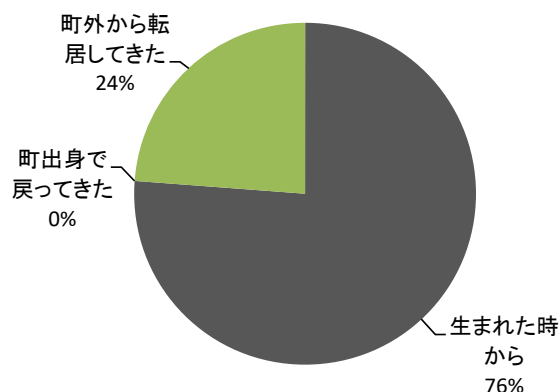


図 3-28 町内での居住期間

3-3-2 中学卒業後の進路

(1) 中学卒業後の進路

表 3-27 中学卒業後の進路

	回答数	構成比
高校へ進学	41	100%
就職	0	0%
その他	0	0%

進学先	回答数
網走市	17
清里町	8
北見市	2
帯広市	1
未定など	5
無回答	10

(2) 進学先を選ぶ理由

表 3-28 進学先を選ぶ理由（複数回答可、N=40）

選択肢	選択数	選択率
自分の学力に合うから	10	25%
学力を伸ばせる学校だから	13	33%
学びたい学科があるから	0	0%
校風が良いから	3	8%
やりたい部活動ができるから	10	25%
評判が良いから	4	10%
就職に有利だから	10	25%
学費が安いから	1	3%
通学時間が比較的短いから	2	5%
自宅から通学できるから	13	33%
寮や下宿があるから	2	5%
親戚・兄弟の家から通学できるから	3	8%
学校周辺の環境が良いから	2	5%
姉や知人等が通っている（いた）から	12	30%
その他	2	5%

3-3-3 高校卒業後の進路

(1) 進路志望

表 3-29 高校卒業後の進路

	回答数	構成比
大学等へ進学	19	48%
就職	18	45%
その他	3	8%

進学・就職先	回答数
小清水町	6
札幌市	2
北見市	1
網走市	1
釧路市	1
道外	4
町外（未定）	10
無回答	17

(2) 大学など進学先の選択理由

表 3-30 進学先を選ぶ理由（複数回答可、N=17）

選択肢	選択数	選択率
自分の学力に合うから	1	6%
学びたい学科があるから	6	35%
校風が良いから	1	6%
やりたい部活動ができるから	2	12%
評判が良いから	1	6%
就職に有利だから	8	47%
学費が安いから	0	0%
自宅から通学できるから	0	0%
寮や下宿があるから	1	6%
親戚・兄弟の家から通学できるから	0	0%
学校周辺の環境が良いから	0	0%
学校が所在するまちに住みたいから	2	12%
兄姉や知人等が通っている（いた）から	0	0%
その他	4	24%

3-3-4 就職について

(1) 希望職業

表 3-31 「将来つきたい職業」(記入式回答、原文まま)

職業(回答内容)	回答数	構成比
1 農業	4	15%
2 保育士	3	12%
3 接客業	3	12%
4 公務員	2	8%
5 銀行員	1	4%
6 事務	1	4%
7 サラリーマン	1	4%
8 動物関連	1	4%
9 看護師	1	4%
10 漁師	1	4%
11 美容師	1	4%
12 作家	1	4%
13 販売員	1	4%
14 警察官	1	4%
15 整備士	1	4%
16 プロバスケット選手	1	4%
17 税理士	1	4%
18 菓子屋	1	4%

(2) 居住意向

表 3-32 「就職後、町内に住んでほしいか」(N=37)

	回答数	構成比
小清水町に住んでほしい	12	32%
小清水町に住んでほしいけれど、前述の職業では難しい	6	16%
町外に住んで働きたい	19	51%

(3) 就職感

表 3-33 「仕事や就職に対する考え方」(最も近いものを1つ選択、N=33)

	回答数	構成比
収入さえあればよい	7	21%
楽しく働きたい	17	52%
自分の夢のために働きたい	1	3%
個人の生活と仕事を両立させたい	2	6%
プライドのもてる仕事をしたい	1	3%
人のためになる仕事をしたい	4	12%
出世したい	0	0%
社会に貢献したい	1	3%

4 人口の将来展望

4-1 めざすべき将来の方向

人口の現状と課題を整理し、人口に関して目指すべき将来の方向性を提示するとともに、将来の人口等を展望する。

4-1-1 現状と課題の整理

(1) 総人口

総人口は、戦後増加したが昭和 35 (1960) 年 11,517 人をピークに減少を続け、平成 27 (2015) 年には 5,085 人まで減少している。

総人口の減少とともに、老年人口比率は増加しており、平成 7 (1990) 年には年少人口比率を上回り、平成 27 (2015) 年時点で 34.9%まで増加している。

仮定値を変えた人口推計のシミュレーションでは、いずれの推計でも中長期的には人口減少、高齢化は避けられない結果となった。

社人研準拠の人口推計では、町の人口減少段階は令和 2 (2020) 年より、年少人口・生産年齢人口が減少する中、老年人口の減少局面となる「第 2 段階」に入っていくと見込まれている。

(2) 自然増減

総人口の推移に影響をあたえる要因である自然増減は、近年では平成 8 (1996) 年に自然増となった以外は自然減で推移している。

合計特殊出生率は、平成 18~24 (2008~2012) 年に 1.54 に回復したが、国民希望出生率=1.8 や人口置換水準=2.07 には届かず、出産世代の女性が大きく減少していることから、自然動態をプラスにするほどには至っておらず、少子化が深刻な課題となっている。

(3) 社会増減

総人口の推移に影響をあたえる要因である社会増減は、転入者数が転出者数を下回る社会減で推移している。近年では平成 10 (1998) 年、平成 18 (2006) 年に 100 名を越える社会減となった。

年齢階級別の人口移動では、高校や大学などの進学等に伴う転出超過となり、Uターン就職などに伴う転入超過となるが、転出超過数と転入超過数を比較するとマイナスとなっており、10 歳代後半から 20 歳代前半の若者が長期的に流出している。この傾向は特に女性において顕著である。また、20 代~40 代の子育て世代は、近年転入超過となっている層もある。

(4) まとめ

以上のことから、現在小清水町は、将来的に人口減少の進行に少子化、若者や子育て世代が流出し、更なる人口減少を招く「縮小スパイラル」に陥るリスクに直面しており、人口減少への対応は喫緊の課題である。

その一方で、仮定値を変えた人口推計のシミュレーションでは、「出生率の上昇」と「社会動態の改善」が、人口減少の抑制、人口構造の高齢化抑制に大きく影響することが確認できており、これらを促す施策の戦略的展開が人口問題への対応のポイントとなるものと考えられる。

4-1-2 めざすべき将来の方向（案）

町の現状や課題、また、国が示す「第2期まち・ひと・しごと長期ビジョン」（令和元年12月）を踏まえ、小清水町がこれから人口問題に対応していくためには、出生率の向上による自然動態の改善と、移住・定住人口の増加による社会動態の改善により人口減少に歯止めをかけるとともに、人口構造の若返りを図る必要がある。

一方で、避けることができない超高齢社会・人口減少社会を前提とした、効率的かつ効果的な社会基盤づくりの視点を持つ必要がある。

こうした観点から、小清水町の今後の取り組みにおいて、目指すべき将来の方向性は、次の3点である。

(1) 安心して出産・子育てできる環境を整える

人口減少を克服するため、次代を担う若い世代が町に住み、安心して働き、希望どおり結婚・妊娠・出産・子育てをすることへの阻害要因の除去に取り組み、これらを実現できる町づくりを推進する。

(2) 若者世代の周辺地域や札幌市への人口流出に歯止めをかける

北見市、網走市、斜里町などの周辺地域や札幌市などへの人口流出（特に若い世代）に歯止めをかけ、是正する。「小清水町に住み、働き、豊かな生活を送りたい人」を増やすため、その希望を実現する雇用・労働機会や定住環境整備を推進する。

(3) 人口減少・超高齢社会など時代を見据えたまちづくりを推進する

人口減少に伴う地域の変化に柔軟に対応し、選択と集中、将来世代へ負担を残さないという考え方により、機能的・効率的で持続可能な社会基盤を構築・管理する。

併せて、高齢者が地域社会で活躍でき人々が共に支え合い、安全で、安心して住み続けられる社会を実現する。

4-2 人口の将来展望

小清水町のこれまでの人口動向を勘案し、目指すべき将来の方向を踏まえて以下の考え方にに基づき、将来人口を展望した。

4-2-1 目標設定

(1) 合計特殊出生率の改善

2015（平成 27）年の 1.54（現状値）から、2030（令和 12）年に 1.80、2040（平成 52）年に 2.00 まで上昇、それ以降は 2.00 の維持を図ることを目指す。

表 4-1 合計特殊出生率の設定

年次	合計特殊出生率	備考
2015（H27）	1.54	現状値（2008 年～2012 年の 5 年間平均）※
2020（R 2）	1.63	推計（2030 年まで一定比率で増加）
2025（R 7）	1.71	〃
2030（R 12）	1.80	基準となる目標
2035（R 17）	1.90	推計（2040 年まで一定比率で増加）
2040（R 22）	2.00	基準となる目標
2045（R 27）	2.00	2040 年以降維持

※まち・ひと・しごと創生本部提供ツールより（2013～2017 年の結果、非公表のため）

(2) 社会増減の均衡

2030（令和 12）年に転出入数の均衡を図ることを目指す。

とりわけ、安心して妊娠・出産・子育てできる社会環境づくりを重点的に進めることにより、

①子育て世代（20 歳代後半～40 歳代後半）は、徐々に転出超過を改善し 2030（令和 12）年に転出入数を均衡させる。

②子ども世代（0～14 歳）の転入超過を図る。

4-2-2 人口の長期的見通し

(1) 総人口の長期的見通し

近年の出生・死亡・移動等の傾向が継続した場合（現状傾向推移：パターン1）の場合、2045（令和27）年の小清水町の人口は2,982人、2065（令和47）年には1,900人まで減少すると見込まれる。

町の推計では、町の施策による効果が着実に反映され、合計特殊出生率と純移動率が目標設定どおり改善されれば、2045年には3,603人、2065年には3,032人となり、現状傾向推移と比較し、2045年で約620人、2065年で約1,130人の施策効果が見込まれる。

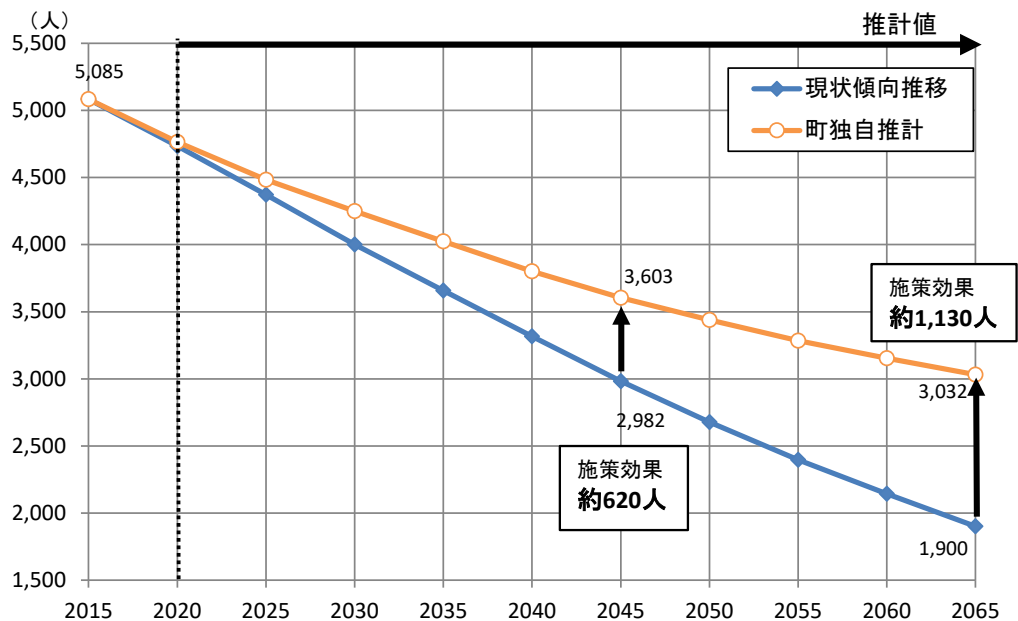


図 4-1 小清水町人口の長期的見通し

表 4-2 小清水町の人口構造の長期的見通し

		2015 (H27)	2020 (R2)	2025 (R7)	2030 (R12)	2035 (R17)	2040 (R22)	2045 (R27)	2050 (R32)	2055 (R37)	2060 (R42)	2065 (R47)
施策効果	町独自推計【①】	5,085	4,764	4,484	4,249	4,024	3,801	3,603	3,438	3,285	3,154	3,032
	現状傾向推移【②】	5,085	4,734	4,373	4,001	3,658	3,316	2,982	2,678	2,396	2,143	1,900
	施策効果【①-②】	0	30	112	248	365	485	621	760	889	1,011	1,132
人口構造	年少人口	599 (11.8%)	563 (11.8%)	511 (11.4%)	458 (10.8%)	457 (11.4%)	462 (12.2%)	466 (12.9%)	479 (13.9%)	486 (14.8%)	484 (15.3%)	467 (15.4%)
	生産年齢人口	2,712 (53.3%)	2,403 (50.4%)	2,213 (49.4%)	2,065 (48.6%)	1,967 (48.9%)	1,822 (47.9%)	1,698 (47.1%)	1,625 (47.3%)	1,573 (47.9%)	1,565 (49.6%)	1,613 (53.2%)
	老年人口	1,774 (34.9%)	1,799 (37.8%)	1,760 (39.3%)	1,726 (40.6%)	1,599 (39.8%)	1,517 (39.9%)	1,440 (40.0%)	1,334 (38.8%)	1,227 (37.3%)	1,105 (35.0%)	952 (31.4%)
	合計	5,085 (100.0%)	4,764 (100.0%)	4,484 (100.0%)	4,249 (100.0%)	4,024 (100.0%)	3,801 (100.0%)	3,603 (100.0%)	3,438 (100.0%)	3,285 (100.0%)	3,154 (100.0%)	3,032 (100.0%)

(2) 高齢化率の長期的見通し

近年の出生・死亡・移動等の傾向が継続した場合（現状傾向推移：パターン 1）、高齢化率（65歳以上人口比率）は、2065（令和47）年には47.1%となると見込まれる。

町の推計では、町の施策による効果が着実に反映され、合計特殊出生率と社会移動が目標値どおり改善されれば、2045年には40.0%、2065年には31.4%まで低下、人口構造の若返りが実現するものと見込まれる。

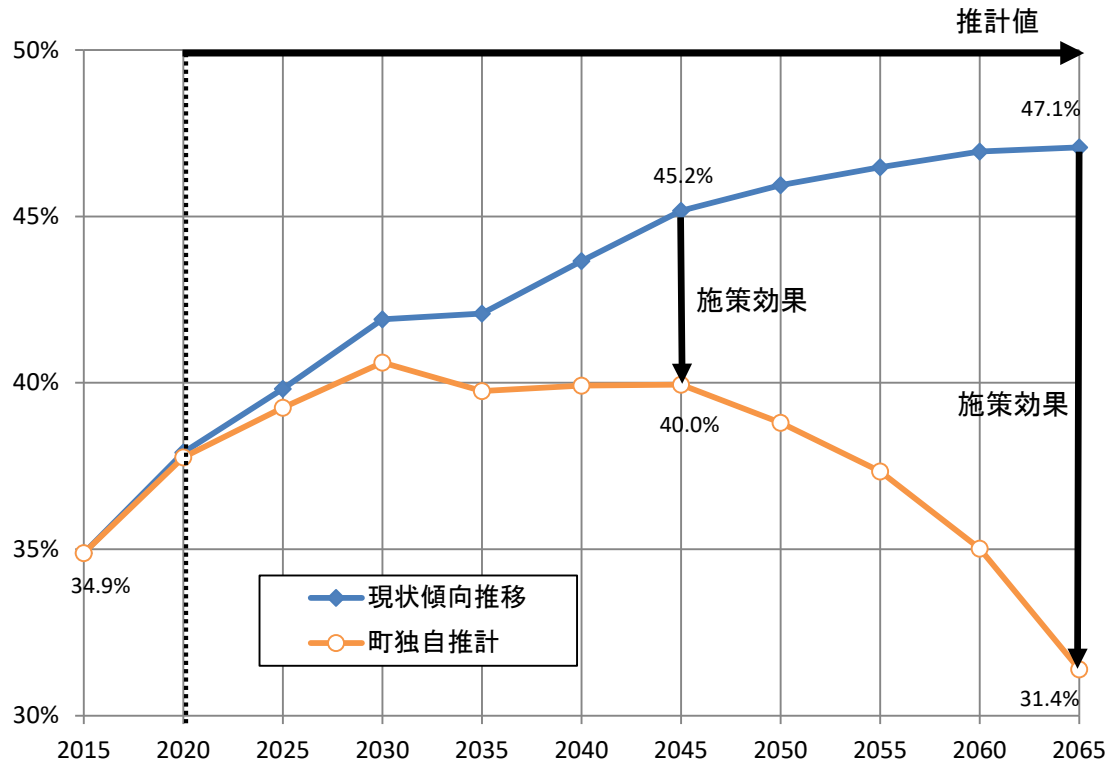


図 4-2 小清水町の高齢化率の長期的見通し